

名古屋文理大学紀要

2024 Vol.24

JOURNAL
OF NAGOYA BUNRI
UNIVERSITY



CONTENTS

1. 名古屋文理大学

日本語における心理述語の名詞化に関する一考察：事象解釈に焦点を当てて・・・田中 明子（5）

「Bunri Creative Award 2022 << 高校生対象 >>

地域のためのメディア創造コンペティション」実施報告

ー 高校生向け情報メディアコンテスト開催の成果と意義 ー・・・・・・世良 清（13）

2. 名古屋文理大学短期大学部

玄米の調理条件がレジスタントスターチ含量に及ぼす影響・・・・・・池田 倫子，山中 なつみ（21）

新型コロナウイルス感染症流行下における短大生の精神的健康の様相

ー入学から卒業までの縦断的变化ー・・・・・・山本 ちか（27）

日本語における心理述語の名詞化に関する一考察

：事象解釈に焦点を当てて

Nominalization of Japanese Psych-verbs:
With a Focus on Eventive Interpretations

田中 明子
Akiko S. TANAKA

要旨：英語の心理動詞構文は、心的状態や心的状態の変化を表す動詞と2つの文法項からなる。2つの文法項の意味役割は、心的状態または心的状態変化の担い手を表す経験者とそのような状態変化をもたらす原因または対象である。Postal (1971)¹⁾の分析に始まる長い研究の歴史の中で、*love* (愛する) や *fear* (恐れる) のように経験者が主語、対象が目的語である心理動詞を含む文はそのままの語順で名詞化されるのに対して (例： *John loves Mary.* → *John's love of Mary*), *please* (喜ばす) や *surprise* (驚かす) のように主語が原因、目的語が経験者である心理動詞を含む文を名詞化するとその心理述語構文とは語順が逆になることが知られてきた (例： *The music pleased John.* → *John's pleasure at the music*)。このタイプの動詞は語彙概念構造の状態変化の部分が名詞化されている可能性が影山 (2008)²⁾ などにより指摘されている。一方、日本語においてはこのタイプの心理述語は使役で表現されるため、語順が逆になる現象は起こらない。本稿では日本語の心理動詞と心理形容詞を対象にして名詞化の意味を考察し、心理状態の名詞化という一般化によって、動詞タイプが異なる場合の共通性を捉えた。

Abstract: A psychological verb (psych-verb) is a dyadic verb that has two distinct arguments, experiencer and theme. In English, the word order remains unchanged when sentences with a subject-experiencer (SE) verb are nominalized (e.g., *John loves Mary.* → *John's love of Mary*), but the word order is reversed in the nominalization of sentences with an object-experiencer (OE) verb (e.g., *The music pleased John.* → *John's pleasure at the music*). This has been known from as long ago as Postal's (1971)¹⁾ analysis. According to Kageyama (2008)²⁾, the state of the base verb's Lexical Conceptual Structure (LCS), []y BE AT- []z, becomes profiled in the former case, but the event, change of state, [John EXPERIENCE y] CAUSE [BECOME [John BE AT-psychological state]] is nominalized in the latter case. In Japanese, where OE verbs are formed by the addition of the causative morpheme *-(s)ase*, however, sentences with an OE verb are not nominalized (e.g., *Sono ongaku-ga Taro-o yoroko-base-ta.* → **Sono ongaku-ni yoru Taro-no yoroko-base*). Following this previous work, this paper examines the meanings identifiable in the nominalization of Japanese psych-verbs of various types, together with psychological adjectives in the language. The results show that, in their nominalized form, psych-verbs express the psychological states of the experiencers.

キーワード：心理動詞, 名詞化, 事象解釈, 経験者, 心理状態

Keywords: psychological verb, nominalization, eventive interpretation, experiencer, psychological state

1. はじめに：英語における心理動詞の名詞化

英語の心理動詞構文は、心的状態や心的状態の変化を表す動詞と2つの文法項からなる。2つの文法項の意味役割は、心的状態または心的状態変化の担い手を表す経験

者と、そのような状態変化をもたらす原因または対象である。Postal (1971)¹⁾の分析に始まる長い研究の歴史の中で、経験者が主語、対象が目的語である(1a)の構文はそのままの語順で名詞化されるのに対して、原因が

主語、経験者が目的語である (1b) の構文を名詞化すると語順が逆になることが知られてきた。

- (1) a. John loves Mary. → John's love of Mary
 John fears the teacher. → John's fear of the teacher
 b. The music pleased John. → John's pleasure at the music
 The news surprised John. → John's surprise at the news
 cf. John was pleased at the music.
 John was surprised at the news.

経験者が主語の位置にある (1a) の構文では、他動詞 love (愛している) と fear (恐れている) が転換によって love (愛情) と fear (恐怖) に名詞化されると、主語にあたる John は所有格 John's, 目的語にあたる Mary や the teacher は of で標示される。同様に、経験者が目的語の位置にくる (1b) の構文でも、他動詞 please (喜ばせる) が派生接辞によって pleasure (喜び) に、また、他動詞 surprise (驚かす) が転換によって surprise (驚き) に名詞化される。ただし、ここでは、主語にあたる the music と the news は前置詞 at, 目的語にあたる John は所有格 John's で表現されなければならず、能動態に対応する語順をとる (2) のような名詞化は非文法的である。

- (2) *The music's pleasure of John
 *The news's surprise of John

このように、経験者を表す補語は、心理述語構文の中では異なる文法関係を担うにもかかわらず、名詞化されると同じ文法関係を担うことについては、影山 (2008) ²⁾ などにより、経験者が主語である (1a) の構文に現れる love や fear が名詞化される場合は基体動詞の語彙概念構造 (3a) の State 全体が取り立てられているのに対して、経験者が目的語である (1b) の構文に現れる please や surprise が名詞化される場合は基体動詞の語彙概念構造 (3b, b') の状態変化の名詞化である可能性が指摘されている。いずれのタイプの心理動詞構文においても、名詞化されたときに取り立てられる語彙概念構造の State または Event の中で、経験者は BE の主語項であり、い

ずれのタイプの心理動詞も、名詞化されたときに持つ事象解釈は経験者が持つにいたった心理状態である。

- (3) a. [ly BE AT- [lz
 b. [John EXPERIENCE y] CAUSE [BECOME
 [John BE AT- 心理状態]]

(cf. 影山 2008: 248)

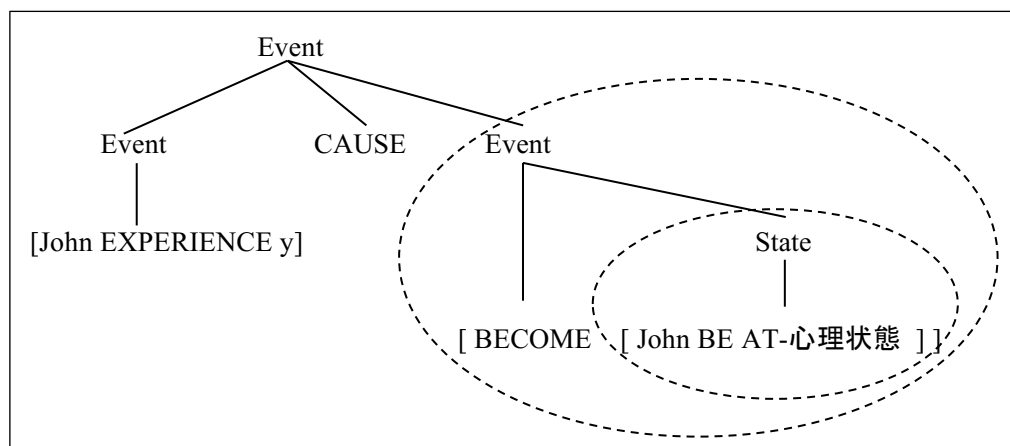
これらの研究をふまえ、本稿では日本語の心理動詞構文がどのように名詞化されるのかを考察する。まず、第2節では連用形からの転換名詞が事象解釈を持つ例について観察する。次に、第3節では形容詞や形容動詞と共通の語幹を持つ心理動詞の名詞化について観察する。動詞連用形の名詞用法が結果名詞の解釈をもつ心理述語について観察した結果については別稿に譲ることとし、第4節で今後の課題を述べる。心理述語の選択には『分類語彙表』³⁾ の体の類、用の類、相の類それぞれの「精神および行為」の項目を参照した。また、名詞用法の例は『朝日新聞デジタル』⁴⁾ に掲載された記事やその見出しと『大辞林』⁵⁾ を参考にして筆者が作成した^{注1)}。名詞用法の判断は筆者の内省であり、非文法的な文には「*」、容認度の低い文には「?」、 「??」をそれぞれ文頭に付した。

2. 心理動詞の連用形からの転換名詞：事象名詞解釈を持つ場合

第1節で観察した英語の心理動詞構文の内容は、日本語においても心的状態を表したり心的状態変化をもたらしたりする動詞と2つの文法項からなる文で表現することができる。しかし、動詞の連用形からの転換によって名詞化することができるのは経験者が主語の位置にある (4a) の文だけであり、経験者が目的語の位置にある (4b) は名詞化されない。

- (4) a. 太郎が花子を愛している。→花子への太郎の愛^{注2)}
 太郎が花子を恐れている。→花子への太郎の恐れ
 b. その音楽が太郎を喜ばせた。
 → * その音楽による太郎の喜ばせ

(3b')



その知らせが太郎を驚かせた。

一 * その知らせによる太郎の驚かせ

c. その音楽が太郎に喜ばれた。

一 * 太郎によるその音楽の喜ばれ

² その知らせが太郎に驚かれた。

一 * 太郎によるその知らせの驚かれ

経験者が主語である(4a)の文が名詞化されると、英語の心理動詞から作られた転換名詞と同様に、心理動詞の連用形から作られた転換名詞が事象解釈を持ち、経験者は「太郎の」のように「の」を伴った形、対象は「花子への」のように「意味格 + の」を伴った形で標示することができる。一方、経験者が目的語である(4b)の文は、そのままでは名詞化することはできない。これは、これらの文に含まれる動詞が「喜ぶ」や「驚く」の未然形に使役の接辞が付加された動詞であるためであると考えられる。心理動詞に限らず、使役の接辞 -(s)ase(ru) が付加された動詞の連用形からの転換名詞は、「知らせ」のように語彙化された名詞や、「別れさせ」のように特定の業界内で使われる用語に限られる^{注3)}。また、(4c)が示すように、受け身の接辞が付加された動詞の連用形も、「斬られ役」のように動作主を表す「一役」を伴う派生語に現れることはあっても、そのまま名詞として使われる例はないようである。

このように、統語的な派生の接辞がついた動詞の連用形からの転換名詞はないことから、経験者が目的語である(4b)のタイプの心理動詞構文はそのままでは名詞化することはできず、また、対応する受け身の文も名詞化されることはない。名詞用法のもととなるのは、経験者を主語にとる動詞「喜ぶ」や「驚く」を含む(5)の文であると考えられる。

(5) a. 太郎がその音楽を喜んだ。

一その音楽に対する太郎の喜び(は終演後まで続いた。)

b. 太郎がその知らせに驚いた。

一その知らせによる太郎の驚き(は今も消えない。)

転換名詞の「喜び」や「驚き」が、経験者の心に生じた感情を表す結果名詞であるのか、経験者が持つにいたった心理状態を表す事象名詞であるのかの区別は難しいが、(5)の例では、転換名詞が喜び続けている状態や驚き続けている状態を表すと解釈することが可能である。経験者が主語である(4a)の文と同様に、ここでも転換名詞「喜び」や「驚き」は事象解釈を持ち、それ以外の補語は、「太郎の」のように「の」を伴った形と「その

音楽に対する」のように「に対する」を伴った形、または「その知らせによる」のように「による」を伴った形で名詞を修飾することができる。

このように、日本語では経験者が主語の位置にくる心理動詞構文のみが名詞化でき、経験者が目的語の位置にくる心理動詞構文は名詞化できない。このことは、英語では経験者を目的語にとる心理動詞を含む文が能動態に対応する(2)のような名詞化を行わないことと類似している。経験者を主語にとるのか目的語にとるのかにかかわらず、心理動詞が名詞化されると経験者が持つにいたった心理状態を表すのだとすれば、日本語の心理動詞が使役や受身形の名詞化を行わないことも自然なことのように思われる。(4b)に挙げた統語的な使役形「喜ばせる」などとは異なり、(6a)に挙げた語彙的な使役形は名詞用法が可能であるが^{注4)}、転換名詞が表すのは経験者が持つにいたった心理状態ではなく、経験者が被った行為である。また、受け身形で使われることが多いと思われる(6b)の心理動詞は、(4c)に挙げた受け身形「喜ばれる」と同様に、連用形からの転換名詞が事象解釈を持つことはない。

(6) a. おどかす, じらす, あまやかす など

強盗が銀行員を大声でおどかす。

一 銀行員に対する強盗のおどかし

b. あっけにとられる, あてられる, ほだされる, つまされる など

工場長が新入社員の熱意にほだされた。

一 * 新入社員の熱意による工場長のほだされ

cf. ² 新入社員が工場長をほだす(営業をした)。

一 * 工場長に対する新入社員のほだし

(6b)の動詞の連用形に名詞用法がないのは、前述したように、受身形は原則として名詞化されないためであると考えられる。「ほだされる」のもとになる動詞「ほだす」には、刑具や絆を意味する連用形からの転換名詞「ほだし」がある。しかし、この動詞が含まれる能動態の文や、「あてられる」や「つまされる」のもとになる動詞「あてる」や「つむ」を含む文は、必ずしも受動態の文と同じ内容を表すとは限らない。(4b)の「喜ばせる」や「驚かせる」とは異なり、(6b)の受身形を含む文には名詞化のもとになるような、対応する能動態の文もないということかもしれない。

日本語の心理述語が名詞化されると経験者が持つにいたった心理状態を表す事象名詞の解釈を持つようになることは、形容詞や形容動詞に「がる」を付加することによって作られた動詞の連用形が事象名詞の解釈を持つこ

とはないことも説明しているように思われる。詳細は別稿に譲るが、「がる」がついてできた動詞の名詞化は可能であり、例えば、形容詞「こわい」に「がる」を付加した動詞「こわがる」の連用形「こわがり」が名詞化されると、ちょっとしたことでもこわがる臆病者を表す結果名詞の解釈を持つ。しかし、派生のもとになる形容詞や形容動詞が和語である(7a)、漢語である(7b)、複合語である(7c)、そして程度のはなはだしさを表す接尾辞「一ない」を付加して派生された(7d)のいずれの動詞にも、事象解釈を持つような連用形からの転換名詞はない^{注5)}。

- (7) a. 煙たがる, 楽しがる, 嬉しがる, 面白がる, おかしがる, 苦しがる, 寂しがる, わびしがる, あじけながる, 哀れがる, 鬱陶しがる, 悩ましがる, 煩わしがる, 面倒くさがる, こわがる, 恐ろしがる, 恥ずかしがる, 面はゆがる, 照れくさがる, もどかしがる, はがゆがる, じれったがる, 惜しがる, 悔やしがる, 口惜しがる, ありがたがる, いやがる, 憎がる, いとしがる, いとおしがる, なつかしがる, 恋しがる, うらやましがる, ねたましがる, いまいましがる, うらめしがる, かわいがる, いじらしがる, 気の毒がる, 憎らしがる, ゆかしがる, 頼もしがる, 奥ゆかしがる, 忌々しがる など
子供が地震をこわがる。
→ * 地震に対する子供のこわがり
cf. 子供が地震に感じるこわさ
- b. 得意がる, 窮屈がる, 愉快がる, 億劫がる, 不気味がる, 残念がる, 無念がる など
常連客が閉店を残念がる。
→ * 閉店に対する常連客の残念がり
cf. 常連客が閉店に感じる残念さ
- c. 心強がる, 心細がる, 寝苦しがる, 待ち遠しがる, 物珍しがる など
村人が外国人を物珍しがる。
→ * 村人による外国人の物珍しがり
cf. 村人が外国人に感じる物珍しさ
- d. 切ながる, かたじけながる, もったいながる, 申し訳ながる, 情ながる など
主婦が廃棄野菜をもったいながる。
→ * 廃棄野菜に対する主婦のもったいながり
cf. 主婦が廃棄野菜に感じるもったいなさ

これらの心理動詞を含む文の内容を表す名詞句に含まれるのは、もとになる形容詞や形容動詞に名詞化接尾辞「一

さ」が付加された派生名詞である。接尾辞「一さ」を伴う名詞は、経験者に生じた感情の名前を表す結果名詞の解釈も可能であり、状態の名詞化との区別は難しいが、状態を表すことができる場合には、名詞化されているのは経験者が持つにいたった心理状態そのものである。動詞の受身形や使役形の名詞化ができないと同様に、ある心理状態にいたる過程やその心理状態を感じるという行為を表す「一がる」形の動詞も、経験者が持つにいたった心理状態を表現することができないという理由で名詞化されないのかもしれない。

杉岡(1992)⁷⁾によれば、日本語の心理動詞を分類する基準は、その動詞を含む文の主語以外の補語が感情を引き起こす原因を表すのか、それとも感情が向けられる対象を表すのかの違いである。杉岡(1992: 365)が挙げた以下の例では、心理動詞が与格「に」を伴う補語をとる(8a)の文に現れる動詞が前者、心理動詞が対格「を」を伴う補語をとる(8b)の文に現れる動詞が後者である。与格補語と対格補語の両方をとることができる(8c)の文に現れる動詞については、与格補語は感情の原因を表し、対格補語が感情の対象を表すという違いが観察される。

- (8) a. 太郎が試験の結果に失望した。
花子がニュースにおどろいた。
子供が大きな音におびえた。
学生が先生の話に感動した。
殺人犯が罪悪感に苦しんでいる。
- b. 太郎がテニスを楽しんだ。
花子が失敗を恐れる。
先生が学生の非行を心配する。
- c. 花子が合格の知らせによるこんだ。
花子が志望校合格をよろこんだ。
村人が牧師の死の知らせに悲しんだ。
村人が牧師の死を悲しんだ。
企業が経営の悪化に悩んでいる。
学生が成績が悪いことを悩んでいる。

前節で確認したように、英語においても日本語においても、心理動詞が名詞化されて事象解釈を持つ場合は経験者の心理状態を表す。上の(8)に挙げた2種類の心理動詞を含む文を名詞化した(9)の例の場合にも、感情の原因は「による」を伴った形で派生名詞を修飾し、感情の対象は「への」や「に対する」を伴った形で派生名詞を修飾するという違いがある。しかし、動詞連用形が転換名詞として用いられ、「する」を伴う漢語動詞がもとの漢語名詞に戻ったりする場合、それが経験者の心

理状態を表すという点では違いはないようである。

- (9) a. 試験の結果による（太郎の）失望，ニュースによる（花子の）おどろき，大きな音による（子供の）おびえ，先生の話による（学生の）感動，罪悪感による（殺人犯の）苦しみ
 b. ²² テニスに対する（太郎の）楽しみ^{注6)}，失敗に対する（花子の）恐れ，学生の非行に対する（先生の）心配
 c. 合格の知らせによる（花子の）よろこび，志望校合格に対する（花子の）よろこび，牧師の死の知らせによる（村人の）悲しみ，牧師の死に対する（村人の）悲しみ，経営の悪化による（企業の）悩み，成績が悪いことに対する（学生の）悩み

加えて，対格補語をとる動詞を含む (9b, c) の例が示すように，転換名詞や「する」の語幹となる名詞も「意味格+の」で現れることから，対格補語をとる動詞と与格補語を取る動詞は，どちらも項構造をもたないという点でも違いがないようである^{注7)}。

本節では，心理動詞には連用形からの転換名詞が可能なものがあり，事象解釈を持つ場合の意味は経験者の心理状態であることを確認した。なお，心理動詞の中にも2つの語からなる複合動詞がある。伊藤・杉岡 (2002: 94, 101-2)⁶⁾ は，単純動詞の連用形からの転換名詞が少ないのに対して，複合動詞は事象名詞を作りやすいことを指摘しているが，与格補語を取る心理動詞 (10a) にも対格補語をとる心理動詞 (10b) にも，連用形からの転換名詞が事象解釈を持つ例はないようである。

- (10) a. 驚き入る，あきれ返る，あきれはてる，困りはてる，困りぬく，困りきる，ふるえあがる，飽きたる，こいこがれる，はじいる など
 警察官が不注意にあきれ返る。
 → * 不注意による警察官のあきれ返り，* 不注意に対する警察官のあきれ返り
 b. 思い煩う，思い悩む，好き好む，忌みきらう，見染める，見上げる，見下げる，見くだす，思いやる，待ちかねる，待ちわびる，待ちこがれる，待ちあぐむ，こいねがう など
 弟は父の帰国を待ちわびている。
 → * 父の帰国に対する弟の待ちわび
 来園者が動物の意思を思いやる（ことのできる施設）。
 → ² 動物の意思に対する来園者の思いやり（を促す施設） cf. 動物への思いやり

これらの心理動詞については，「思いやる」の連用形からの転換名詞「思いやり」が結果名詞としてよく使われることを除いて連用形からの転換名詞がないことから，先に述べた複合動詞は事象名詞を作りやすいという一般化に反しているように思われる。ただし，以下の (11) に挙げた例が示すように，和語の単純動詞や漢語の動詞の中にも連用形がそのままでは名詞として成り立たない例は多数あるため，複合動詞であることが名詞用法を妨げているとは考えにくい。

- (11) a. おじける，おののく，こる，ほれる，こがれる，なつく，やける，甘んずる，ふける など
 作家が扉絵に凝る。
 → ²² 扉絵に対する作家の凝り，²² 扉絵による作家の凝り
 b. 憂える，好く，めでる，懐かしむ，嫌う，いとう，うとむ，うとんじる，やく，慕う，仰ぐ，あがめる，尊ぶ，たつとぶ，重んじる，いやしむ，あまったれる，惜しむ，悼む，哭する，弔する，謝する，期す，いばる，恋する，偲ぶ，怪しむ，いぶかる，いぶかしむ，危ぶむ など
 観光客が石庭を愛でる。
 → * 石庭に対する観光客の愛で
 c. 困る，おこる など
 私が五輪開催におこる。
 → * 五輪開催による私のおこり
 野球選手が記者をおこる。
 → * 記者に対する野球選手のおこり
 cf. 市民が開催の決定にいかる。
 → 開催の決定による市民のいかり
 選手が記者の発言にいかった。
 → 記者の発言による選手のいかり

(10) で観察したように複合動詞の連用形からの転換名詞には事象解釈がないことが心理動詞の特徴であるのかどうかについては，「思いやり」の事象解釈の可否と併せてさらなる検討が必要であるが，ここでは，(10)，(11) に挙げた心理動詞の連用形に名詞用法がないのは，この用法が不安定であるためと考えることにする。

3. 心理形容詞と形容動詞から派生する名詞

杉岡 (1992)⁷⁾ は，対格補語をとる動詞は形容詞を派生することが可能であるのに対して，与格補語をとる動詞は形容詞を派生することができないことを指摘し，この形容詞派生の可否が2種類の心理動詞構文の大きな違いであると結論している。杉岡 (1992: 369)⁷⁾ が挙げた

以下の例が示すように、対格補語をとる(12a)の心理動詞構文は形容詞を含む述語で言い換えることができるのに対し、与格補語をとる(12b)の心理動詞構文にはそのような言い換えはない。

(12) a. 住民が噴火を恐れる。

→ 住民には噴火が恐ろしい。

花子が太郎をうらやむ。

→ 花子には太郎がうらやましい。

私は円満な解決を好む。

→ 私には円満な解決が好ましい。

よろこぶ／よろこばしい、ねたむ／ねたましい、
憎む／憎らしい、望む／望ましい

b. おどろく／*おどろかしい、とまどう／*とまどわしい、うろたえる／うろたわしい、怒る／*怒らしい

つまり、対格補語をとる心理動詞「恐れる」には、連用形からの転換名詞「恐れ」に加えて、共通する語幹を持つ形容詞「恐ろしい」に接尾辞「一さ」を付加して派生した「恐ろしさ」が成り立つことになる。

対応する形容動詞を持つ漢語の心理動詞の数は少ないが、「一さ」の付加によって名詞化する語に(13a)の「退屈だ」がある。また、連用形からの転換名詞を持つ和語の動詞に対応する形容詞や形容動詞には、(13a)の例のほかに、(13b)の形容詞と形容動詞があり、ほとんどのものが「一さ」の付加によって名詞化できるようである。

(13) a. 退屈する：退屈だ

学生が先生の話に退屈する。

→ 先生の話による学生の退屈

先生の話が学生には退屈だ。

→ 学生が先生の話に対して感じる退屈さ

cf. 安心だ：安心する、心配だ：心配する、満足だ：満足する など

先生が学生の非行を心配する。

→ 学生の非行に対する先生の心配

学生の非行が先生には心配だ。

→ * 学生の非行に対する先生の心配さ

b. 悲しむ：悲しい、楽しむ：楽しい、苦しむ：苦しい、おそれる：おそろしい、懐かしむ：懐かしい、うらやむ：うらやましい、憎む：憎い、あわれむ：あわれだ など

殺人犯が罪悪感に苦しんでいる。

→ 殺人犯の罪悪感による苦しみ(9a)

罪悪感が殺人犯に苦しい(こと)。

→ 殺人犯が罪悪感に対して感じる苦しさ

cf. 花子が失敗を悔やんだ。

→ * 失敗に対する花子の悔やみ

失敗が花子に悔しかった(こと)。

→ 花子が失敗に対して感じる悔しさ

…とアドバイス通りに一年間悔しみを綴り、

…(梨 2020: 前書き)⁸⁾

対応する心理動詞構文の中では補語の位置にあった感情の対象は、形容詞や形容動詞を含む文の中では主格の「が」を伴って主語として現れる。また、対応する心理動詞構文の中では動詞の主語の位置にあった経験者は、形容詞や形容動詞を含む文の中では、格助詞「に」を伴って付加詞として現れる。そして、心理形容詞・形容動詞を含む文が名詞化されると、それが表す状態は主語である感情の対象の状態ではなく、付加詞である経験者の心理状態である。連用形からの転換名詞が経験者の心理状態(感情)の名付けであるのに対して、接辞「一さ」による派生名詞は経験者が抱く感情の性質や程度を表すと解釈することもできるため、動詞連用形からの転換名詞「苦しみ」や「恐れ」と、接辞「一さ」によって形容詞から派生された「苦しさ」や「恐ろしさ」が持つ意味についてはさらなる検討が必要である。ただし、どちらも経験者の心理状態を表し、例えば、対応する形容詞から新たに作られ、ラジオ番組を通じて使われるようになった「悔しみ」が表そうとしている特定の物語や人物から感じ取った具体的な体験とは異なるようである。

このように、心理動詞を含む文と心理形容詞・形容動詞を含む文とは、主語と補語、あるいは主語と付加詞の語順が逆になっているにもかかわらず、名詞化されるとどちらの文も経験者の心理状態を表す。(14)の例が示すように、このことは、第1節の(1b, 2)で確認した経験者を目的語にとる英語の心理動詞構文を名詞化したときに語順が逆になる現象と類似している。

(14) その音楽が太郎に喜ばしい。

→ 太郎がその音楽に対して感じる喜ばしさ

cf. * その知らせが太郎に驚かしい。

→ * 太郎がその知らせによって感じる驚かしさ

第2節では、名詞化に関しては与格補語をとる心理動詞と対格補語をとる心理動詞に違いはないことを確認したが、対応する「一さ」形の名詞が成り立つかどうかという点からは、名詞化についても日本語の2種類の心理動詞構文に違いがあるということができのかもしれない。

なお、共通の語幹をもつ形容詞・形容動詞が存在せず、

したがって対応する「一さ」形の派生名詞を持たない心理動詞には(15)のような和語の単純動詞もある。

- (15) a. ためらう／＊ためらわしい, 迷う／＊迷わしい,
たしなむ／＊たしなましい など
校長が運動会の中止をためらう。
→＊校長には運動会の中止がためらわしい。
cf. (校長が運動会の中止に対して感じる) た
めらい／＊ためらわしさ
b. しらける／＊しらかわしい, あきれる／＊あ
きらわしい, 困る／＊困らわしい など
小学生が絵日記の題材に困る。
→＊小学生には絵日記の題材が困らわしい。
cf. ＊(小学生が絵日記の題材に対して感じる)
困り
c. あきる／＊あきらわしい, 憧れる／＊憧らわ
しい, 惚れる／＊惚らわしい など
舞踊家が浮世絵師に憧れる。
→＊舞踊家には浮世絵師が憧らわしい。
cf. (舞踏家が浮世絵師に対して感じる) 憧れ
／＊憧らわしさ

対格補語をとる(15a)の動詞と同様に,(15c)の動詞もその補語が経験者の感情の対象を表すように解釈できるが,これらの動詞も補語が経験者の感情の原因を表す(15b)の動詞と同様に与格補語をとる動詞である。これらの動詞が形容詞を派生することができない理由が心理動詞のタイプによるものなのかどうかは不明であるが,補語が「に」を伴い,かつ経験者の感情の対象を表す動詞には,対応する形容詞はないようである。

対応する形容詞や形容動詞がない心理動詞には,このほかに,漢語や複合語の名詞に「一する」が伴う(16a, b)のような動詞,そして,擬態語・擬音語と考えられる副詞に「一する」や「一とする」を伴う(16c, d)のような動詞がある。

- (16) a. 驚嘆する, 苦悩する, 当惑する, 激怒する, 安
堵する, 憂慮する, 偏愛する, 嫉妬する, 尊敬
する, 軽蔑する, 落胆する, 失望する など
コラムニストが逃げ馬を偏愛する。
→ 逃げ馬に対するコラムニストの偏愛
F1選手が低燃費技術に驚嘆する。
→ 低燃費技術による F1選手の驚嘆
b. 八つ当たりする, 一安心する, 気兼ねする, え
こひいきする, 出し惜しみする など
力士が白星に一安心する。
→ 白星による力士の一安心

コーチが選手をえこひいきする。

→ 選手に対するコーチのえこひいき

- c. うっとりする, びっくりする, くよくよする,
そわそわする, うんざりする, がっかりする,
むかむかする, むしゃくしゃする, いらいらす
る など
花見客が夜桜にうっとりする。
→＊夜桜による花見客のうっとり
cf. うきうきする, わくわくする, びくびく
する, ドキドキする など
d. ぎょっとする, びっくりとする, ぎくりとする,
どきんとする, しんみりする など
記者が巨大肖像画にぎょっとする。
→＊巨大肖像画による記者のぎょっと
cf. ぼかんとする, きょとんとする, けろり
とする など

漢語や複合語を語幹とする動詞にも,対格補語をとる動詞と与格補語をとる動詞の2種類が見られる。語幹の部分が複合語であり,かつ,主語以外の補語を取る心理動詞は少ないが,これは,「する」の語幹になる複合名詞の多くは複合動詞の内部で「する」の部分の目的語を充足していることとも関係がありそうである。一方,副詞に「する」を付加して作られる動詞は与格補語をとる。同じ成り立ちで主語以外の補語をとらない動詞にも,語幹の名詞用法はないようである。

4. 今後の課題

本稿は,日本語の心理述語構文について,動詞のとる経験者項が主語位置にあるか目的語位置にあるか,動詞が対格補語をとるか与格補語をとるか,そして,対応する形容詞・形容動詞があるかどうかの区別を考慮しながら,また,動詞の成り立ちが和語であるのか,複合語であるのか,漢語や擬態語を語幹とするかどうかの区別も考慮しながら,その動詞連用形からの転換名詞について考察した。そして,日本語の心理述語構文の名詞化が事象名詞解釈を持つのは,経験者を主語にとる動詞の名詞化のみであること,すなわち,語彙概念構造のうち BE AT- 心理状態 が名詞化されていることを観察した。

事象名詞については,単純事象名詞と複雑事象名詞の区別が存在するのかどうかの検討が必要である。特に複合動詞の連用形からの転換名詞については,事象名詞解釈の可否についても引き続き調査をする必要がある。併せて,動詞連用形からの転換名詞と形容詞に「一さ」を付加することによって派生される名詞との意味の違いに

については、後者のもとになる形容詞の観点からも細かく分類することが必要である。また、心理状態や心理状態の変化を表すと考えられるにもかかわらず対格補語も与格補語も取らない動詞やその名詞化が、今回観察した心理動詞やその連用形の名詞用法とどのように異なるのかを比較する必要もあると思われる。新しく使われるようになった用例の調査を含め、今後の課題としたい。

謝辞

本稿は2022年度後期に東京言語研究所理論言語学講座『形態論・語形成論』を担当された慶應大学名誉教授の杉岡洋子先生に提出した報告書の一部を改訂したものである。語の形と意味を観察することの楽しさを教えてくださり、丁寧な指導をしてくださった杉岡先生に心から感謝申し上げます。本稿中に残った誤りはすべて筆者の責任である。本研究に関して申告すべき利益相反（COI）はない。

注

注1) 本稿のもととなった報告書では、朝日新聞デジタルに掲載された記事の中に見られる心理述語とその名詞化を考察した。紙幅の制限により本稿ではそれらの例文を割愛し、新たな例文を筆者が作成した。

注2) 「敬愛する」のような「動名詞＋する」の動詞とは異なり、「愛する」は漢字1字の動詞語幹である。「花子への太郎の愛」が「愛する」という状態の名詞化であるのか感情の名前であるのかはわかりにくい。が、「花子に対する太郎の愛は死ぬまで続いた」のような文の中では、事象解釈がされていると思われる。

注3) 心理動詞の中では「いやがる」の使役形「いやがらせる」に連用形からの転換名詞があり、悪意のある「言動」を意味する。

例) 翌年もこの児童に対するいやがらせが続いた。
／＊級友による登校へのいやがらせ
これは語彙化された名詞で、事象解釈と思われるが、「級友が児童に登校をいやがらせる」の意味での事象名詞としての解釈はできない。

注4) 語彙的な使役形と統語的な使役形が連用形の名詞用法の可否において異なるのは、統語操作と考えられる受身と同様に、統語的な使役も統語部門で作られるためであると考えられる。(cf. 伊藤・杉岡 (2002: 108-9)⁶⁾)

注5) (7a) に挙げた動詞のうち、「かわいがる」には連用

形「かわいがり」からの転換名詞があり、上位の力士が若手力士に対して行う「しごき」などを意味する。

例) 角界ではかわいがりが愛情だとみられている。
／＊兄弟子による弟弟子のかわいがり

これは特定の集団で使われる語彙化された名詞で、事象解釈を持つと思われるが、主語「兄弟子」の心理状態としての解釈はできない。

注6) 「楽しみ」を太郎の心理状態として解釈する用法は筆者の周辺では文法的とは判断されず、この例の容認度が低いことがわかる。動詞「楽しい」の連用形からの転換名詞「楽しみ」は、「テニスが毎週末の太郎の楽しみだ」のように、楽しいと感じる物事や趣味、娯楽を表す結果名詞としての解釈は可能であるが、状態の名付けにはなりにくいようである。

注7) 対格補語が「の」を伴うことは可能であるが、「テニスの楽しみ」、「失敗の恐れ」、「非行の心配」、「合格のよろこび」、「死の悲しみ」などに見られる「名詞＋の」は項ではなく、名詞の修飾であるように思われる。

引用文献

- 1) Postal, P. *Cross-Over Phenomena*, Holt, Rinehart and Winston (1971) .
- 2) 影山太郎「語彙概念構造 (LCS) 入門」『レキシコンフォーラム』No.4 (4) ひつじ書房, 東京 (2008).
- 3) 国立国語研究所『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書, 東京 (2004) .
- 4) 朝日新聞デジタル, <https://www.asahi.com> (参照 2020 -1 -1から2023-1-15) .
- 5) 松村明 (編)『大辞林』(第4版) 三省堂, 東京 (2019).
- 6) 伊藤たかね・杉岡洋子『語のしくみと語形成』研究社, 東京 (2002).
- 7) 杉岡洋子「心理述語についての考察」『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』第24号: 361-373 (1992).
- 8) 梨うまい『悔しみノート』祥伝社, 東京 (2020).

参考文献

- Grimshaw, J, *Argument Structure*, MIT Press, Cambridge, MA (1990).
- Jackendoff, R, *Semantic Structures*, MIT Press, Cambridge, MA (1990).

「Bunri Creative Award 2022 << 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション」実施報告

— 高校生向け情報メディアコンテスト開催の成果と意義 —

"Bunri Creative Award 2022 for High School Students
Media Creation Competition for Local Communities"
— Achievements and Significance of the Information Media Contest
for High School Students —

世良 清
Kiyoshi Sera

概要：高大連携は喫緊の重要課題である。その一環として、本学ではこれまでも情報メディア学科で高校生向けのコンテストが実施されてきたが、2022年度からは学内の実施体制を地域連携センターに移して「Bunri Creative Award 2022 << 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション」が実施されることになった。本稿では、筆者の体験をもとに、高校教員からヒアリングを行い、企画運営した事例を報告し、その成果と意義を考察した。

Abstract：Cooperation between high schools and universities is an urgent and important issue. As part of this effort, the Department of Information and Media Studies has been holding contests for high school students, but from the 2022 academic year, we have decided to transfer the on-campus implementation system to the Community Cooperation Center. In this report, we report on the planning and operation of the "Bunri Creative Award 2022 Media Creation Competition for High School Students" and discuss the results and significance of the event.

キーワード：高大連携、高校生コンテスト、情報システム部門、メディア表現部門、スピーチ部門、公開審査

Keywords: high school-university collaboration, high school student contest, information systems division, media expression division, speech section, public examination

1. はじめに

筆者は、本学着任前の高校教諭の時代に、2020年度に実施された本学高校生向けコンテスト¹⁾を始め、他大学主催、行政や企業など様々な主催者によるコンテスト等に応募してきた経緯がある。そのなかには上位入賞したコンテストもあり、一方、応募しても何の返答もないまま過ぎていったコンテストもあった。

これら経緯を反映し、2022年度には、地域連携センター運営委員会を中心にコンテスト運営に携わることになり、筆者は、参加した高校生にも、あるいは、指導教

員にも、さらには応募を受ける本学側にも満足感の残るコンテストとなるようにと、2021年6月から2022年5月にかけて、愛知・岐阜・三重県に所在する約50高校を訪問し、情報教育の担当教諭のほか、各種部活動顧問教諭、教務主任、校長・教頭らにヒアリングを行った。その際に収集した課題を顕在化（図1）するとともに改善策を検討して「Bunri Creative Award 2022 << 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション」の実施を企画した。

図1 高校生コンテストへの高校ヒアリング

- ・多くのコンテストの締切日は、8月末から10月頃に集中している。これは、夏期休業中に作業することを前提にしていると想定されるが、多数のコンテストが輻輳しているため、応募先を見極めて選出しなければならない。
- ・高校卒業後に就職する生徒や、推薦・AO入試などにより、進学する3年生は、進路決定後、卒業までの期間が長く、学習目標を見失いやすいので、12月から1月頃に締切日を設定したコンテストへの需要は大きい。
- ・1・2年生徒には、進路指導に活用できる実績となると有り難い。
- ・応募しても、予選を通過し、あるいは入賞した者にのみ通知があり、予選で落選し入賞しない応募者は放置される。あるいは、本選が終わった後に、形式的な報告書が届くだけである。
- ・結果が届くのが、3年生の卒業式後では、連絡が取れないことがある。
- ・表彰式などに参加する交通費は、高校側からは公式的な行事以外は支出されないもので、生徒の自己負担となる。
- ・審査の過程が見えない。評価点が不明瞭である。
- ・映画作品に応募する機会が少ない。また、高校生が出演する作品の公開には、生徒の個人情報保護の観点から、作品が広く公開されるコンテストには応募を躊躇する。

図2 ヒアリングにより抽出された課題改善

- ・遠方からの交通費負担をなくすため、オンライン開催を併用する。
- ・オンラインでの開催については、関係者に限定する。
- ・公開審査、表彰式は2月中に完了させる。
- ・稲沢市、稲沢市教育委員会から後援名義の使用許可、賞状・副賞の提供を受ける
- ・地域の団体との連携を図る。
- ・上位の賞だけではなく、奨励賞や特別賞を用意し、応募した高校生全員に目を向ける。
- ・新聞社から後援名義の使用、賞状の提供、紙面への掲載
- ・公開審査の実施
- ・外部審査員（新聞社、県立高校、青年会議所など）、学生審査員の登用
- ・各高校 WEB への掲載依頼
- ・出前表彰式の実施（遠方を除く）

これらのヒアリング内容から課題を抽出し、改善策を企画に反映させることにした。

ヒアリングにより抽出された課題を改善（図2）して、開催要項の骨子（図3）を取りまとめた。応募期限は、冬期休業が終わり、1月の授業開始1週後とし、その後1週間程度で、予選結果の通知、2月に公開審査会を実施し、表彰状等は卒業式に間に合うように届けることとした。また、高校に表彰状等を届ける際には、高校長の理解が得られれば、校長室に本学から教員が出向き、出前

図3 開催要項の骨子

Bunri Creative Award 2022 <<高校生対象>> 地域のためのメディア創造コンペティション

【公開審査】 日時:2月11日(土) 開会 12:30 閉会 16:00
(受付 11:30~12:05)

【場所】 名古屋文理大学 本館 ソフィアホール

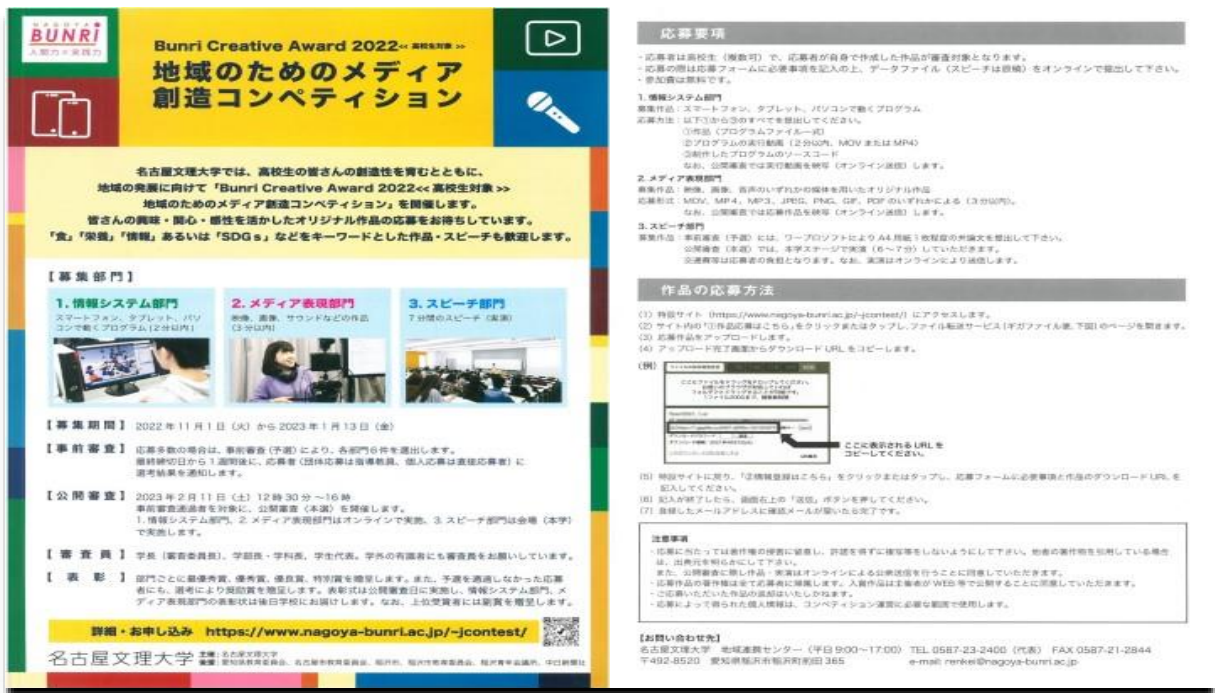
【実施方法】 オンライン(情報システム部門、メディア表現部門)と、会場実施(スピーチ部門)のハイブリッド実施。

【主催】 名古屋文理大学

【後援】 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、
稲沢市、稲沢市教育委員会、
(一社)稲沢青年会議所、中日新聞

N A G O Y A ●
BUNRI

図4 2022年度のご案内書



表彰式を行い、各地域の報道機関に情報提供することによって、新聞紙面に記事として取り上げられるように工夫した。

2. 高校への参加の働きかけ

本学 WEB ページによる広報²⁾、入試広報・学事課や情報メディア学科教員による高校訪問での案内や、オープンキャンパスへの参加高校生への案内、さらには、新聞への募集記事掲載など、様々なアプローチによって広報に努めた。案内書(図4)を一新して、情報科担当教員のほか、放送部や映画部などの部活動にターゲットをあて、指導担当教員に直接アプローチし、作品制作や応募の手順などをアドバイスするなど、高校側の目線に即した対応を行った。

3. コンテスト公開審査の運営

本学の年間日程の中で、高校生コンテストの開催日は、大学入学共通テスト後が適切であり、高校3年生にとっては多くの高校で、卒業式前の自宅学習期間であることを考慮して、2月11日(土)に設定した。しかしこの時期は、降雪も懸念され、遠方からの応募者に配慮して、①情報システム部門と、②メディア表現部門は、ZOOMを使用してオンライン開催、③スピーチ部門は会場開催と、ハイブリッド開催とすることにした。スピーチ部門を会場開催としたのは、2024年に岐阜県で全国高等学校総合文化祭が実施されることとなっており、筆者は岐阜

県高等学校文化連盟弁論部門に協力しており、要望もあって、参加した高校生に臨場感を体験する機会を設ける目的があった。

当日は、景山節学長(図5)、長谷川聡副学長・情報メディア学部長・地域連携センター長を始め、櫻井雅子客員教授、地域連携センター運営委員会委員・職員に参画していただき、また、情報メディア学科学生からも運営スタッフとして起用した。

図5 景山学長による開会挨拶



公開審査当日は、地域連携センターで受け付けを行い、ソフィアホールを会場として実施した。スピーチ部門に出場した高校生は、練習に余念がなく(図6)、また、他の2部門に参加する高校生は、ZOOMによりオンラインで参加した。

図6 スピーチ部門のリハーサル風景



図7 スピーチ部門の発表風景



しかし、運営方法が複雑であったことにより、スタッフ間の連絡調整不足や、オンラインの障害等により、進行上に混乱が生じた。これは紛れもない事実であり、今後への改善策を共有しておく必要がある。

4. 審査結果

愛知、岐阜、三重の3県を中心に、長野県、茨城県の高校9校から総数35件の応募があり、事前審査（予選）³⁾を通過した情報システム部門3作品、メディア表現部門9作品、スピーチ部門5名を対象に、公開審査⁴⁾を、2月

11日（土）、本学本館ソフィアホールで開催（図7）した。

審査には先に述べた外部審査員と内部審査員の9名に尽力いただいた（図8）。

各部門とも、熱心に準備し、制作された作品が多く、高校生の目線で自らの考えを盛り込んだもの、地域の紹介や課題を取り上げたもの、ほのぼのとした作品など、実に多彩な作品・スピーチが集まった。どの作品・スピーチも甲乙つけがたい状況のなかで、審査は本学学長、学部長のほか、高校や地域の観点を取り入れるため、学外審査員として、県立高校長、情報科教諭、稲沢青年会議所、中日新聞一宮総局から、有識者の皆様をお招きし、さらに若い感性も取り入れるため本学学生から、男性1名女性1名が審査員に加わり、厳正に執り行った。

とりわけスピーチ部門は、高校生が自分の言葉で熱い思いを熱く語る姿に聴衆が聞き入り、「弁論は7分間の言葉の芸術」と呼ばれるように、参加者一同、感動する場面が見られた。

その結果、各部門の入賞者（図9）が決定し、学長表彰状とともに、最優秀賞には稲沢市長賞（図10）が、優秀賞には稲沢市教育委員会賞（図11）が授与され、さらに優良賞までには中日新聞社賞が併せて授与された。また、熱心に活動をされた学校・個人に特別賞、奨励賞を贈呈した。

表彰は、会場で実施したほか、長谷川副学長と共に各校を訪問し、校長室で出前表彰式を行った。その状況は複数の高校のWEBページで公開されている。さらには多くの高校では、校長によって全校集会などの場で伝達表彰が行われた。

また、各地域の新聞社などに事前に情報提供を行ったことにより、地域版に記事として掲載された。これは、本学の広報になるだけでなく、高校にとっても、学校が

図8 審査員名簿

【外部審査員】（順不同）

愛知県立岡崎商業高等学校 校長
愛知県立一宮高等学校 情報科教諭
（一社）稲沢青年会議所 副理事長・専務理事
中日新聞 一宮総局 総局長

加藤 千景 様
鈴木 淳子 様
大野 紀之 様
渡部 圭 様

【内部審査員】（敬称略）

名古屋文理大学 学長
名古屋文理大学 副学長・情報メディア学部長・教授
名古屋文理大学 情報メディア学部 客員教授
名古屋文理大学 情報メディア学部 学生
同 上

景山 節
長谷川 聡
櫻井 雅子
野村 侑暉
中澤 雅子

図9 入賞者一覧

(注：入賞者の個人名は省略)

【情報システム部門】

最優秀賞（学長賞、稲沢市長賞、中日新聞社賞）

「Change Ring」 UWC ISAK Japan

優秀賞（学長賞、稲沢市教育委員会賞、中日新聞社賞）

「デバイス・タッチレス・ソフトウェア制御プログラム」茨城県立水戸工業高等学校

優良賞（学長賞、中日新聞社賞）

「教室の換気方法を考える」愛知県立名古屋西高等学校

【メディア表現部門】

最優秀賞（学長賞、稲沢市長賞、中日新聞社賞）

「ゆでたまご研究会」岐阜県立岐南工業高等学校

優秀賞（学長賞、稲沢市教育委員会賞、中日新聞社賞）

「生きる」三重県立神戸高等学校

優良賞（学長賞、中日新聞社賞）

「おたすけ戦隊カラフルマン！」愛知県立尾西高等学校

「最近の社会・若者社会」愛知県立尾西高等学校

「冬」名古屋女子大学高等学校

「海」名古屋女子大学高等学校

「こだまでしょうか」名古屋女子大学高等学校

「『自分を見失いそうになった日』より」名古屋女子大学高等学校

「岐阜の文化」岐阜県立岐阜各務野高等学校

【スピーチ部門】

最優秀賞（学長賞、稲沢市長賞、中日新聞社賞）

「青春の代名詞」岐阜県立加納高等学校

優秀賞（学長賞、稲沢市教育委員会賞、中日新聞社賞）

「新たな人生の光」岐阜県立岐南工業高等学校

優良賞（学長賞、中日新聞社賞）

「思い出があたたかくなるように」岐阜県立加納高等学校

「未来につなげたい大事なものの」三重県立神戸高等学校

【奨励賞】（学長賞）

「カワウソカフェにいったみた」愛知県立尾西高等学校

「電気火災に気を付けよう！」「尾西高校」愛知県立尾西高等学校

「尾西高校作ってみた」愛知県立尾西高等学校

「I LOVE Anime！」岐阜県立岐阜各務野高等学校

「清流とのつながり」岐阜県立岐阜各務野高等学校

「水明」岐阜県立岐阜各務野高等学校

「創造の海」岐阜県立岐阜各務野高等学校

【特別賞】（学長賞）愛知県立尾西高等学校

図10 稲沢市長賞



図11 稲沢市教育委員会賞



図12 特別賞



所在する地域への広報になり好評を得た。また、多数の応募があった愛知県立尾西高等学校に贈った特別賞（図12）は、現在も高校の玄関付近に掲出されている。

5. まとめ

「Bunri Creative Award 2022 << 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション」では、高校生らが集い、交流の場を生み出すことができた（図13）のは、オープンキャンパスとは異なり、本学にとって大きな財産と言える。しかし初めての試みを多数取り入れて複雑化したことにより、混乱が生じたのは、偏に筆者の責任である。この場を借りて関係の皆様には改めてお詫び申し上げる。

図13 表彰後の集合写真



ところで、高校生コンテストを大学が主催する意義を考えてみたい。高校生を対象としたコンテストは、全国高等学校総合文化祭など、文部科学省や都道府県教育委員会などの教育行政が実施するもの、各種公益法人や民間企業が実施するものなど多岐にわたる。しかし、ヒアリングを進める中で、高校教育現場の目線で実施されているとはいえないコンテストも少なくないことがわかった。

こうした状況の下、高校生にとっていかに有意義なコ

ンテストを創生するために考えることが重要になる。それは、単に作品の成果を評価するだけに留まらず、高校生がひたむきに努力した経過が正しく評価される機会を設けるのは本学の地域貢献と言える。さらには、高校教員が指導した成果が評価される機会を提供することが重要であると筆者は考えている。高校教員と強い絆を築き、信頼を得ることが、高大連携、さらには今後の高大接続に結びつくといえるのではなかろうか。

2023年度は、健康生活学部、情報メディア学部の2部門による「Bunri Creative Award 2023 地域創造のための高校生コンテスト」として開催が決まっている。参加高校の拡がりにより、愛知県教育委員会のほか、岐阜県、三重県教育委員会の後援名義の許可も得た。多くの大学主催の高校生向けコンテストが輻輳するなか、高校生や高校教員に選ばれる魅力的なコンテストとして永続することを願ってやまない。

本稿執筆にあたり、関係の皆様にご助言をいただいたことに厚く御礼申し上げます。なお、利益相反に関して開示すべき COI 状態はない

本稿に使用した写真は、被撮影者の了解を得たものであり、本学 WEB ページにも掲載している。

本稿は、令和4年度名古屋文理大学FD・SDフォーラムにおける報告（2023）、及び日本教育学会第81回大会（2023.8.24、広島大学からオンライン開催）における口頭発表⁵⁾を基に再構成したものである。

参考・引用文献

- 1) 名古屋文理大学「高校生コンテスト入賞者決定」（2021.4.8）
<https://www.nagoya-bunri.ac.jp/news/post-1673/>
（2023.10.1 最終確認）
- 2) 名古屋文理大学「『Bunri Creative Award 2022<< 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション』の募集が始まりました」（2022.11.2）
<https://www.nagoya-bunri.ac.jp/news/post-8770/>
（2023.10.1 最終確認）
- 3) 名古屋文理大学「Bunri Creative Award 2022<< 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション事前審査発表」（2022.2.6）
<https://www.nagoya-bunri.ac.jp/news/post-10464/>
（2023.10.1 最終確認）
- 4) 名古屋文理大学「Bunri Creative Award 2022<< 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティ

ション最終結果発表」(2023. 2. 21)

<https://www.nagoya-bunri.ac.jp/news/post-10642/>

(2023.10.1 最終確認)

- 5) 世良清「高校生向け情報メディアコンテスト開催の成果と意義 ―「Bunri Creative Award 2022 << 高校生対象 >> 地域のためのメディア創造コンペティション」をめぐって―」、日本教育学会第81回大会、2023

玄米の調理条件がレジスタントスターチ含量に及ぼす影響

Effect of Brown Rice Cooking Conditions on Resistant Starch Content

池田 倫子, 山中 なつみ*
Noriko IKEDA, Natsumi YAMANAKA*

【要旨】本研究は玄米と玄米粉を用いて炊飯時の形状の違いがRS(レジスタントスターチ)含量に与える影響を調べるとともに炊飯方法の違いや冷蔵保存がRS含量に及ぼす影響について検討した。玄米のRS含量は通常炊飯した場合は0.33%, 加圧炊飯では0.33%であり, 玄米粉では通常炊飯した場合0.29%, 加圧炊飯では0.25%であった。玄米粉のRS含量において, 加圧炊飯は通常炊飯に比べて顕著に減少した。玄米を粉にして加圧炊飯することはRS含量を相乗的に減少させることが示された。冷蔵保存後のRS含量は, 玄米を通常炊飯後冷蔵保存した場合は0.38%, 加圧炊飯後冷蔵保存した場合は0.43%であったのに対し, 玄米粉を通常炊飯後冷蔵保存した場合は0.28%, 加圧炊飯後冷蔵保存した場合は0.36%であった。加圧炊飯した玄米, 玄米粉は通常炊飯した場合に比べて冷蔵保存後のRS含量の増加が顕著であった。

【abstract】 In this study, we investigated the effect of the difference in shape of materials on the RS(resistant starch) content during cooking and examined the effect of cooking method and refrigerated storage on the RS content, by using brown rice and brown rice flour. The RS content of brown rice was 0.33% for normal cooking and 0.33% for pressure cooking, and brown rice flour was 0.29% for normal cooking and 0.25% for pressure cooking. As for the RS content of brown rice flour, pressure cooking was significantly reduced compared to normal cooking. Grinding brown rice and pressure cooking were shown to synergistically reduce the RS content. After refrigerated storage, the RS content of brown rice was 0.38% for normal cooking, 0.43% for pressure cooking. The RS content of brown rice flour was 0.28% for normal cooking, 0.36% for pressure cooking. Although there was no difference in the RS content of brown rice between cooking methods, it was shown that the RS content of brown rice flour significantly decreased by pressure cooking. After refrigerated storage, pressure cooking increased the RS content of both brown rice and brown rice flour.

【キーワード】玄米 粉碎 加圧炊飯 冷蔵 レジスタントスターチ

【Key word】brown rice, grinding, pressure cooking, cold storage, resistant starch

【目的】

食物繊維は保水性, 有害物質に対する吸着性といった物理的性質を有する¹⁾だけでなく, 腸内発酵性により腸内細菌叢の改善や発がん性物質生成の抑制が認められており²⁾, 積極的な摂取が推奨されている成分である。日本人の食事摂取基準2020年版³⁾の成人の食物繊維の目標量は男性21 g/日, 女性18 g/日であるが, 2020年の国民栄養健康調査⁴⁾において食物繊維摂取量は成人(20～

59歳)で16～18 g/日との報告がなされ, 目標量に到達していないのが現状である。

食物繊維の摂取不足の要因は, 穀類の摂取量減少や精製された穀類の摂取量増加が要因に挙げられている⁵⁾が, 近年では健康志向の高まりにより精製されていない穀類が好まれる傾向がある。玄米も胚乳を覆う糠層に食物繊維, ビタミン類, ミネラル類が白米に比べて豊富に含まれている⁶⁾ことから見直されている食品の1つであ

*名古屋女子大学 健康科学部 健康栄養学科

る。また、でんぷんを豊富に含む穀類、いも類、豆類などにはヒトの消化酵素では分解されないレジスタントスターチ（以下、RS）が含まれている⁷⁾。RSは食物繊維同様に腸内発酵性を示す⁸⁾ため機能性成分として注目されており、食物繊維に加えてRSも含まれる玄米には健康食材としての期待が寄せられている。

食品中のRS含量は調理操作によって変化することが認められている。さつまいもに含まれるRSは、蒸し加熱をすることで電子レンジ加熱に比べてRS含量が増加し⁹⁾、白米に含まれるRSは、米粉に粉碎し加熱することでRS量が減少するとの報告¹⁰⁾がなされている。玄米飯は白飯に比べて固く食味が悪いいため、玄米を圧力鍋で炊飯した玄米飯が主食として食べられることが多いが、その一方で玄米を粉碎した玄米粉を菓子¹¹⁾¹²⁾やパン¹³⁾などに用いるための研究もなされている。このように玄米は粒状のままだけでなく、粉碎して利用されることがあるため、形状の違いが炊飯や冷蔵保存といった調理操作後のRS含量へ及ぼす影響を明らかにすることで玄米のRSを効率的に摂取することが可能となる。しかし、玄米から玄米粉に粉碎して調理した場合のRS含量の変化に着目した報告はみられない。そこで本研究は、玄米と玄米粉を試料とし形状の違いが炊飯ならびに冷蔵保存後のRS含量に及ぼす影響について検討した。

【材料と方法】

1. 試料

玄米は新潟県産コシヒカリ（2021年産）を用いた。玄米を食品ミル（IFM-C20G、岩谷産業（株））で粉碎後、目開き250 μ mのふるいに通し、玄米粉とした。

2. 異なる炊飯方法での試料調製

炊飯時の水の蒸発量の違いによる影響をなくするため、試料と水を真空包装用パックに入れて密封し炊飯や冷蔵保存を行った。すなわち、玄米と玄米粉はそれぞれ3g測り取り、ナイロン・ポリエチレン樹脂製の3層構造フィルムで作成した袋（7cm×4cm）に入れ、そ



図1 玄米ならびに玄米粉の試料調製

こに蒸留水3.6 ml（加水量1.2倍）を加えて卓上シーラー（MB-5×300SA、AS ONE（株））で密封した（図1）。

(1) 通常炊飯

密封した玄米あるいは玄米粉は25℃恒温器内で16時間吸水させた。25℃の水1Lを入れた鍋（直径20cm、深さ7cm、ステンレス製）に吸水後の試料を入れ、ふた（直径20cm、ガラス製）をして沸騰まで強火で4.5分、その後弱火で40分間微沸を保ちながら加熱し、消火後10分放置した。これを通常炊飯とした。

(2) 加圧炊飯

25℃恒温器内で2時間吸水させた試料を25℃の水1Lを入れた圧力鍋（通常炊飯時に用いた鍋と同一でふたは加圧用を使用）を用いて強火で4.5分、加圧（80kPa）下にて弱火で20分加熱し、消火後10分放置した。これを加圧炊飯とした。

尚、炊飯にはガスコンロを使用し、火加減が同一になるようコンロのつまみに印をつけて加熱を行った。炊飯後の試料は25℃恒温器内で10分間放冷した後、乳鉢ですり潰し均質化した。

3. 冷蔵保存

炊飯後の試料は密封したまま4℃恒温器で2日間保存した後、乳鉢ですり潰し均質化した。

4. RS含量測定

Megazyme 社 製 RESISTANT STARCH KIT K-RSTAR（AOAC 公定法2002.02）を用いてRS含量を測定した。凍結乾燥を施した試料を用いる場合は100mgの試料を用いて測定する¹⁴⁾が、本研究では凍結乾燥による試料の性状変化を防ぐため凍結乾燥を行わず、乾燥重量で100mgに相当する220mgの試料を用いた。

5. 統計解析

統計処理はエクセル統計ソフト（BellCurve for Excel 4.05）を用いた。試料の形状（玄米、玄米粉）の影響と炊飯方法（通常炊飯、加圧炊飯）の影響、ならびに炊飯時の試料の形状の影響と冷蔵保存の影響の各二要因における交互作用を確認するため二元配置分散分析を行い、交互作用が認められた場合は全群における多重比較を行うためTukey法を用いた。なお、危険率が0.05以下のとき有意であるとみなした。

【結果と考察】

炊飯方法が異なる炊飯直後の玄米と玄米粉のRS含量を図2に示した。炊飯直後の玄米のRS含量は通常炊飯0.33±0.02%、加圧炊飯0.33±0.01%であった。炊飯直後の玄米粉のRS含量は通常炊飯0.29±0.01%、加圧炊飯

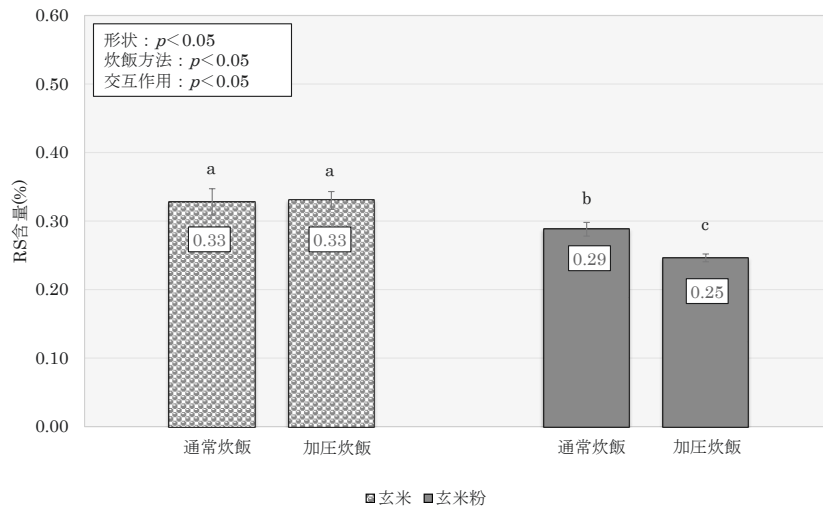


図2 炊飯方法が玄米ならびに玄米粉の RS 含量に及ぼす影響

5回の調製における平均値と標準偏差を示した。

アルファベットは異なる文字間で有意差 ($p < 0.05$) があることを示す。

0.25±0.01%であった。これらの結果に対して試料の形状の違いと炊飯方法の二要因において二元配置分散分析を行った結果、交互作用が有意 ($p < 0.05$) であった。通常炊飯した玄米と加圧炊飯した玄米の RS 含量には差がなく、炊飯方法の違いによる影響は認められなかった。通常炊飯した玄米粉の RS 量は玄米に比べて有意に低く、粉碎して炊飯することで RS 量が減少することが認められた。さらに加圧炊飯した玄米粉の RS 含量は通常炊飯に比べて顕著に減少し、玄米粉を加圧炊飯することは RS 含量を相乗的に低下させ、これら二要因は相互に影響を及ぼしていることが示された。RS は物理的、化学的性質から 4 つのカテゴリーに分けられており、RS1 はでんぷん質が外皮や外殻に保護され、食品のマトリック

ス構造中に物理的に包み込まれ消化酵素が作用しにくいもの、RS2 はでんぷん粒子自体が消化抵抗性を示すもの、RS3 は調理後に再結晶化した老化でんぷん、RS4 は化学試薬を用いて分子間に架橋を施した架橋でんぷんやエーテルでんぷんと言われる加工でんぷんとされている¹⁵⁾。本研究結果において、玄米粉は胚乳が外皮に保護されていないため浸漬で吸水が充分に進み、加熱による糊化が進んだことで未糊化でんぷんに含まれる RS が減少したと考えられる。しかし、玄米では加圧炊飯による RS の減少は見られず、玄米飯を食べることは RS 摂取量増加につながると期待できる。また、玄米の加圧炊飯は通常炊飯に比べて浸漬時間ならびに加熱時間が短く調理の手間が少ないため、利便性の高い調理方法であるとともに

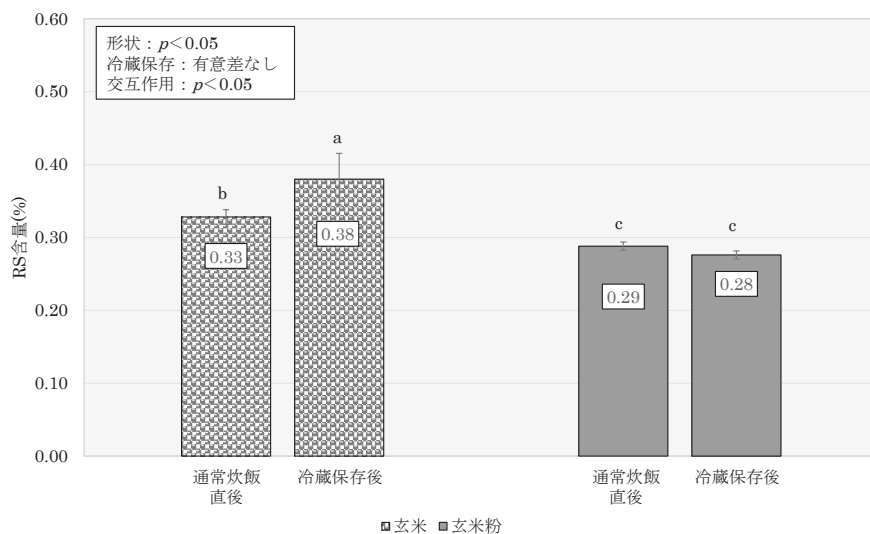


図3 冷蔵保存が通常炊飯した玄米ならびに玄米粉の RS 含量に及ぼす影響

5回の調製における平均値と標準偏差を示した。

アルファベットは異なる文字間で有意差 ($p < 0.05$) があることを示す。

RS の効率的な摂取が可能であると示された。Parchure ら¹⁶⁾ は加圧加熱をした米でんぷんが茹で加熱をした米でんぷんに比べて RS 含量が高くなることを報告しており、本研究とは異なる結果であった。本研究の RS 測定方法において、試料は咀嚼を想定して乳鉢ですり潰して用いた。これにより測定の際に試料の乾燥、粉碎を行っている Parchure ら¹⁶⁾ の RS 含量の変化とは異なる傾向となった可能性が考えられる。Noro ら¹⁷⁾ は、糊化しない程度の水分量で加熱する湿熱処理を施した米粉が湿熱処理時間に応じて RS 含量が増加することを示唆しており、加水量を減らし加熱時間を長くするなど炊飯条件を見直すことで玄米の RS 含量が増加する可能性が考えられる。RS 含量は炊飯条件の中でも加熱方法の違いによる影響が大きいと思われるが、吸水時間や加熱時間が影響を及ぼしている可能性もあるため、今後は加熱方法だけでなく加水量、吸水時間、加熱時間にも着目し、RS 含量との関係を明らかにしていきたい。

次に冷蔵保存が通常炊飯した玄米と玄米粉の RS 含量に及ぼす影響について図3に示した。通常炊飯後冷蔵保存した玄米の RS 含量は $0.38 \pm 0.04\%$ 、玄米粉の RS 量は $0.28 \pm 0.01\%$ であり、炊飯直後からの RS 増加率はそれぞれ1.15倍、0.97倍であった。これらの結果に対して形状の違いと冷蔵保存の影響の二要因で二元配置分散分析を行った結果、交互作用が有意 ($p < 0.05$) であることが認められたため、全群において多重比較を行ったところ、冷蔵保存後の玄米の RS 含量が最も高く、次いで通常炊飯直後の玄米であった。玄米粉は冷蔵保存しても RS 含量に変化はなく玄米に比べて低かった。これらの結果より、玄米を通常炊飯後冷蔵保存することで相乗的に RS

含量が増加すると示された。茹で加熱したじゃがいもは冷蔵保存をすることで RS 含量が増加するとの報告があり¹⁸⁾¹⁹⁾、本研究結果の通常炊飯した玄米は同様の結果となった一方で、玄米粉は冷蔵保存の影響が見られなかったことから玄米粉として炊飯した後に冷蔵保存してもでんぷんの老化が進みにくく RS の形成が進まなかった可能性が考えられる。

冷蔵保存が加圧炊飯した玄米と玄米粉の RS 含量に及ぼす影響について図4に示した。加圧炊飯後冷蔵保存した玄米の RS 含量は $0.43 \pm 0.05\%$ 、玄米粉では $0.36 \pm 0.03\%$ であった。加圧炊飯直後からの RS 増加率はそれぞれ1.30倍、1.52倍であり、通常炊飯後に冷蔵した場合に比べていずれの試料も顕著に増加が示された。さらに試料の形状の違いと冷蔵保存の影響の二要因で二元配置分散分析を行った結果、RS 含量に対する試料の形状の違いに冷蔵保存の影響はいずれも有意 ($p < 0.05$) であったが、交互作用は有意ではなかった。これらの結果より、冷蔵保存後の玄米の RS 含量の増加は相乗効果によるものであることが分かった。Yadav ら²⁰⁾ は、米粉を加圧加熱後に冷却することで RS 含量が増加することを報告しており、本研究でも玄米ならびに玄米粉いずれの RS も増加したことから、加圧炊飯は通常炊飯に比べて冷蔵保存でのでんぷんの老化が進みやすく RS の形成が進んだ可能性が考えられたが、RS 増加の原因を解明することはできず今後の課題となった。小林ら²¹⁾ の報告で、じゃがいもでんぷんは湿熱処理によりでんぷん粒の崩壊や融合で構造が変化し RS が形成されることが確認されている。老化でんぷんもまた水分が失われることで分子同士が緻密な配列になることから、本研究で加圧炊飯し冷蔵

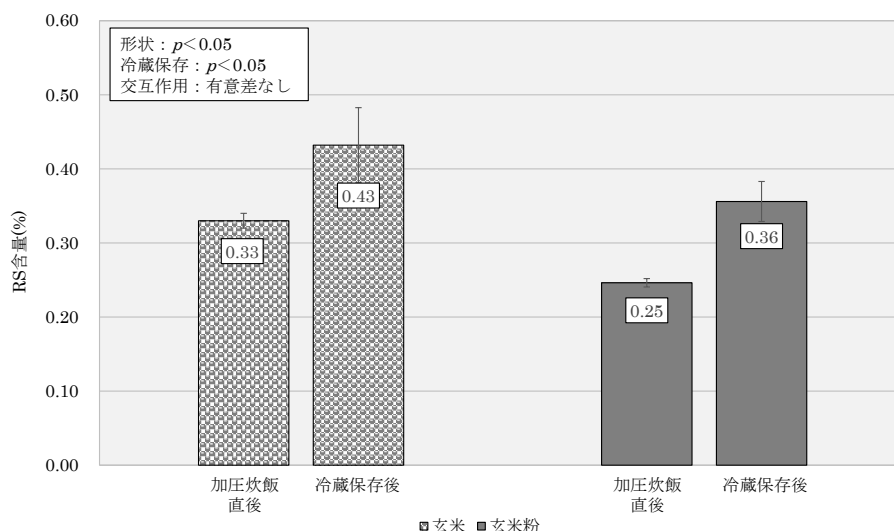


図4 冷蔵保存が加圧炊飯した玄米ならびに玄米粉の RS 含量に及ぼす影響
5回の調製における平均値と標準偏差を示した。

保存した玄米ならびに玄米粉に含まれるでんぷんが湿熱処理でんぷん同様に崩壊や融合により RS が形成された可能性がある。そのため、今後は加圧炊飯した玄米ならびに玄米粉の組織構造の変化を確認する必要がある。

これらのことから、加圧炊飯や冷蔵保存は玄米の RS 含量増加に効果的であることが認められたが、冷えた玄米飯は固く食味が悪いことから実生活では再加熱して食べることが想定されるため、再加熱直後の玄米に含まれる RS 含量の検証と再加熱した玄米飯の固さや味などおいしさに対する官能評価が必要である。Park ら²²⁾ は粳米を蒸し加熱した後に焙煎、籾殻除去、粉碎処理をした玄米粉の RS 含量ならびに玄米粉の組織構造を確認しており、同様の処理をした玄米粉に比べて膨潤や糊化が進まず RS 含量が高くなることを報告している。このことから、玄米として加圧炊飯、冷蔵保存後に粉碎して調製した玄米粉は、玄米粉として加圧炊飯、冷蔵保存した場合に比べて RS 含量が高い可能性が考えられる。今後は玄米粉をパンや菓子製造へ利用することを想定し加熱時間に加え、粉碎するタイミングの影響を確認し、玄米中の RS 含量増加に最も効果的な調理条件を明らかにしたい。

【謝辞】

本研究は公益財団法人エリザベス・アーノルド富士財団令和 4 年度学術研究助成金によって行われたことを付記し、関係者各位に心より感謝いたします。

【参考文献】

- 1) 武田敏, 桐山修八, 「食物繊維」, (印南敏, 桐山修八編), 第一出版株式会社, 59-79, 1995
- 2) 奥恒行, 「食物繊維」, (印南敏, 桐山修八編), 第一出版株式会社, 95-98, 1995
- 3) 厚生労働省, 日本人の食事摂取基準 (2020年版), 「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書, 165, <https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000586553.pdf>, 2023.9.14閲覧
- 4) 厚生労働省, 令和元年国民健康・栄養調査結果の概要, 栄養素・食品群別摂取量に関する状況, 1栄養素等摂取量, 37, <https://www.mhlw.go.jp/content/000711006.pdf>, 2023.9.15閲覧
- 5) 青江誠一郎, 大麦 β グルカンの機能性について, 日本食生活学会誌, 26(1), 3-6, 2015
- 6) 文部科学省 科学技術・学術審議会資源調査分科会「日本食品成分表 八訂本編集 2023」, 医歯薬出版株式会社, 12-13
- 7) 早川享志, 「食物繊維基礎と応用」(日本食物繊維学会編集委員会編), 第一出版株式会社, 51-52, 2008
- 8) 早川享志, ルミナコイドとしてのレジスタントスターチの機能, 海老原清・早川享志・奥恒行責任編集, ルミナコイド研究のフロンティア—食物繊維・オリゴ糖・レジスタントスターチの最新研究動向—, 建帛社, 233-243, 2010
- 9) 池田倫子, 山の中なつみ, 小川宣子, 加熱方法の違いがさつまいもの食物繊維量と物理的性質に及ぼす影響, 日本家政学会誌 71 (11), 719-726, 2020
- 10) 本間 紀之, 赤石 隆一郎, 吉井 洋一, 中村 幸一, 大坪 研一, 米および米加工品における難消化性澱粉含量の測定, 55(1), 18-24, 2008
- 11) 肥後温子, 井部奈生子, 大坪俊輔, 大楠秀樹, 雑穀粉・全粒粉を含む穀粉で作製したクッキー様焼成品の官能評価と力学評価, 日本調理科学会誌, 49(1), 49-57, 2016
- 12) 肥後温子, 大坪俊輔, 大楠秀樹, 井部奈生子, 米粉, 雑穀粉, 全粒粉を含む10種類の穀粉製ケーキ菓子の官能評価, 49 (3), 232-242, 2016
- 13) S. Khoshgozaran-Abras, M. H. Azizi, corresponding, N. Bagheripoor-Fallah, A. Khodamoradi, Effect of brown rice flour fortification on the quality of wheat-based dough and flat bread, *J Food Sci Technol.*, 51(10), 2821-2826, 2014
- 14) Megazyme Ltd, RESISTANT STARCH ASSAY PROTOCOL, K-RSTAR, https://www.megazyme.com/documents/Assay_Protocol/K-RSTAR_DATA.pdf, 2023.8.16閲覧
- 15) 早川 享志, 柘植 治人, デンプンの摂取と健康— 難消化性デンプンの生理機能—, 日本食物繊維研究会誌, 3(2), 55-64, 1999
- 16) A A Parchure, P R Kulkarni, Effect of food processing treatments on generation of resistant starch, *International Journal of Food Sciences and Nutrition*, 48(4), 257-260, 1997
- 17) Wataru Noro, Keiko Morohashi, Sumiko Nakamura, Masaharu Nakajima, Ken'ichi Ohtsubo, Effects of Heat Moisture Treatments on the Digestibility and Physicochemical Properties of Various Rice Flours, *Food Science and Technology Research*, 24(5), 851-859, 2018

- 18) Raatz, S.K.; Idso, L.; Johnson, L.K.; M. I.; Jackson, Combs, G.F. Resistant starch analysis of commonly consumed potatoes: content varies by cooking method and service temperature but not by variety. *Food Chemistry*, 208, 297-300, 2016
- 19) Monro, J, Mishra, S, Blandford, E, Anderson, J., Genet, R, Potato genotype differences in nutritionally distinct starch fractions after cooking and cooking plus storing cool, *Journal of food composition and analysis*, 22, 539-545, 2009
- 20) Yadav B.S., Sharma A., Yadav R.B., Studies on effect of multiple heating/cooling cycles on the resistant starch formation in cereals, legumes and tubers, *International Journal of Food Sciences and Nutrition*, 60, 258-272, 2009
- 21) 小林 恒夫, 湿熱処理澱粉の膵臓 α - アミラーゼによる分解性と湿熱処理による抵抗性澱粉の生成, 澱粉科学, 40 (3) , 285-290, 1993
- 22) Jiyoung Park, Sea-Kwan Oh, Hyun-Jung Chung, Dong Sun Shin, Induck Choi, Hyun-Jin Park, Effect of steaming and roasting on the quality and resistant starch of brown rice flour with high amylose content, *LWT-Food Science and Technology*, 167(15), 2022

新型コロナウイルス感染症流行下における 短大生の精神的健康の様相

—入学から卒業までの縦断的变化—

Mental Health among Junior College Students during the COVID-19 pandemic: Longitudinal Changes from Matriculation to Graduation

山本 ちか
Chika, YAMAMOTO

論文要旨：本研究の目的は、新型コロナウイルス感染症流行下に入学した短期大学生の精神的健康の縦断的变化を検討し、精神的健康と学校適応の関連を検討することであった。調査は2020年度の入学生を対象に3回行った。分析は、3回の調査の全てに回答のあった74名を対象に行った。

入学時には28.4%、1年終了時25.7%、卒業時29.7%の学生が、精神的に健康ではない状態を示していた。精神的健康の縦断的变化については、入学当初から卒業まで K10の合計点に時点間差はみられず、2年間で精神的健康状態に変化はみられなかった。精神的健康と学校適応の関連については、どの時期も「時間的展望の確立」が精神的健康と関連していた。また、入学時には「集団機能の維持」が精神的健康と関連し、卒業時の精神的健康には同時点の「学習意欲の維持」と1年終了時の「居心地の良い場所」が関連していた。

英文要旨：The purpose of this study was to examine longitudinal changes in the mental health of junior college students who entered school during the COVID-19 pandemic and to examine the association between mental health and school adjustment. The questionnaire was administered at three different times repeatedly in 2020 and 2022. The analysis reported here are based on 74 junior college students who responded to all three surveys.

Main results were as follows: (1) 28.4% of the students were mentally unhealthy at the time of admission, 25.7% at the end of the first year, and 29.7% at graduation. (2) Regarding longitudinal changes in mental health, there were no inter-point differences in total K10 scores from the beginning of enrollment to graduation, and there were no changes in mental health status over the two years. (3) Regarding the relationship between mental health and school adjustment, "establishing a time perspective" was associated with mental health at all time points. In addition, "maintaining group functioning" was related to mental health at the time of school entry, and "maintaining motivation to learn" at the same time and "cozy place" at the end of the first year were related to mental health at graduation.

キーワード：精神的健康, 縦断的变化, 学校適応, 短期大学生, COVID-19

Keywords：Mental Health, Longitudinal Development, School Adjustments, Junior College Students, COVID-19

目的

精神的に不調を抱えた学生の早期発見等を目的として多くの大学では入学時に学生の精神的健康についての実態調査が行われており（平山・全国大学メンタルヘルス研究会, 2011）¹⁾、学生生活支援に役立てられている。本研究では短期大学生を対象に精神的健康の実態を把握し、学校適応との関連から学生生活の支援に役立つ要因

を検討してきた（山本, 2022）²⁾。入学時から1年間の精神的健康状態を検討した結果では、入学当初から精神的に問題を抱えている学生がみられた。精神的健康の縦断的变化については、1年生前期終了時に最も精神的に健康でない状態を示していた。また精神的健康と学校適応の関連については、どの時期も「時間的展望の確立」が精神的健康と関連しており、また後期開始時には「知

識・技能の習得」と「居心地の良い場所」が精神的健康と関連していた。

2019年末から新型コロナウイルス感染症が拡大し、日本では2020年4月16日に全国で緊急事態宣言が発令され（内閣府，2020）³⁾、様々な活動の自粛が行われた。大学においては、2020年3月24日に「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」が文部科学省から通知され（文部科学省，2020）⁴⁾、遠隔授業等により学生の学習環境が変化し、その他の学生生活にも大きな変化が生じた。新型コロナウイルス感染に対する不安やこうした様々な行動制限や生活環境の変化に伴うストレスによって、学生に精神的に不健康な状態が生じている可能性が考えられる。新型コロナウイルス感染症による国民の心理面への影響を把握するため厚生労働省によって実施された調査では、2020年の4月以降いずれの時期も、半数程度の人が何らかの不安等を感じており、不安の対象としては、いずれの時期も「自分や家族の感染への不安」が最も多かったことが報告されている（厚生労働省，2020）⁵⁾。大学生については、文部科学省が2021年に実施した新型コロナウイルス感染症による学生生活への影響についての実態調査において、令和2年度後期に履修した授業のうちオンライン授業がほとんど又はすべてだったと回答した学生は全体の6割程度であること、全体的な満足度としては、不満に感じる割合より満足に感じる割合の方が多く、学生生活における悩みとしては、将来のキャリアに関する悩みが最も多いことが報告されている（文部科学省，2021）⁶⁾。

こうした新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた時期に入学した学生はそれまでに入学した学生と同様の精神的健康状態であるのだろうか。入学してから卒業に至るまでにどのような精神的健康状態の変化がみられるのであろうか。本研究では、コロナ禍に入学した短期大学生に焦点をあてて、新型コロナウイルス感染症流行下に学生生活を過ごした学生の精神的健康の様相を検討することを目的とする。主な目的は以下の2点である。

1つめの目的は、精神的健康状態について、入学から卒業までの縦断的变化を検討することである。項目反応理論（IRT）に基づいて作成された精神的健康のスクリーニングテストである Kessler10⁷⁾ を用いて、入学当初、1年終了時、卒業時の3時点で調査を行い、入学から卒業までの2年間の精神的健康の縦断的变化を検討する。また「学生生活への不安」、「学生生活の楽しさ」、「学生生活の充実度」についても適応状態を検討する指標の1つとする。

2つめの目的は、精神的健康に影響を与える可能性がある要因として学校適応をとりあげ、学校適応が精神的健康に与える影響を検討することである。学校適応の指標として、豊かな人間性、確かな学力、学校生活へのポジティブな評価の3側面から測定する学校適応尺度（原田・竹本，2014）⁸⁾ を用いて、学校適応のどのような側面が精神的健康に影響を与えているのかを検討する。コロナ禍以前の調査（山本，2022）²⁾ では、どの時期も「時間的展望の確立」が精神的健康と関連しており、クラスへの適応である「集団機能の維持」、「良好な友人関係」、「適度な教師関係」といった対人関係の側面は精神的健康と関連していなかったが、コロナ禍に入学した学生も同様であるのかを検討する。

方法

1. 調査実施時期と調査協力者

新型コロナウイルス感染拡大初期の2020年4月に入学した短期大学生を対象に、入学時、1年終了時、卒業時の3回調査を実施した。調査を行ったのは資格取得を目指す学科であり、1クラス30名前後でクラス単位の授業を実施している。調査は、調査用紙を一斉に配布して回答してもらい、その場で回収を行った。調査実施時期は、第1回調査：入学時（2020年6月）、第2回調査：1年終了時（2021年2月）、第3回調査：卒業時（2022年2月）の3回であった。なお、第1回調査は、4月、5月の遠隔授業の後、6月に対面授業が開始された直後に行った。

調査協力者は、第1回調査98名、第2回調査87名、第3回調査85名であった。本報告では3回の調査の全てに回答のあった74名を分析対象とした。

2. 調査内容

精神的健康の指標として、Kessler10を用いた。また、学校適応（原田・竹本，2014）⁸⁾、第1回調査時（入学時）及び第2回調査時（1年終了時）には、学生生活への不安や悩みの有無とその具体的な内容についてもたずねた。第3回調査時（卒業時）には、学生生活の楽しさ、学生生活の充実度についてもたずねた。また、本報告では分析に用いなかったが、自己肯定感を測定する全体的自己価値（山本，2013）⁹⁾ 及び具体的側面の自己評価（山本，2013）⁹⁾ についてもたずねた。

①精神的健康度：

精神的健康度を測定する尺度として山本（2022）²⁾ でも使用した Kessler10(K10) を用いた。項目反応理論（IRT）

に基づいて作成されたスクリーニングテストである。以下 K10とする。古川・大野・宇田・中根 (2003)¹⁰⁾ によって作成された日本語版を使用した。Kessler10は鋭敏なスクリーナーと考えられており (Furukawa, Kessler, Andrews, & Slade, 2003)¹¹⁾, 酒井・野口 (2015)¹²⁾ では、因子分析によって1次元性が確認されている。また古川・大野・宇田・中根 (2003)¹⁰⁾ の研究では、25点以上がスクリーニングのカットオフポイントとされている。本研究においても、この得点を基準として、学生の精神的健康状態の様相を検討する。精神的健康状態を示す10項目について、5件法 (1: 全くない, 2: 少しだけ, 3: ときどき, 4: たいてい, 5: いつも) でたずねた。10項目の合計点を尺度得点とした。得点が高いほど、精神的に健康ではない状態を示している。10項目のクロンバックの α 係数は、第1回調査は $\alpha = .914$, 第2回調査は $\alpha = .896$, 第3回調査は $\alpha = .935$ であった。

②学生生活への不安や悩みの有無:

第1回調査時 (入学時) には、これから短大生活を送るうえで何か不安なこと、心配なこと、悩んでいることはあるか (ある, ない) をたずねた。ある場合は、その具体的内容をたずねた。

③学生生活の楽しさ:

第3回調査時 (卒業時) に、2年間の短大生活は楽しいものであったかを4件法 (4: とても楽しかった, 3: まあ楽しかった, 2: あまり楽しくなかった, 1: 全く楽しくなかった) でたずねた。

④学生生活の充実度:

第3回調査時 (卒業時) に、短大生活は充実していたかを4件法 (4: とても充実していた, 3: まあ充実していた, 2: あまり充実していなかった, 1: 全く充実していなかった) でたずねた。

⑤学校適応:

学校適応の指標として、原田・竹本 (2014)⁹⁾ が作成した尺度を用いた。この尺度は豊かな人間性 (3側面)、確かな学力 (4側面)、学校生活へのポジティブな評価 (3側面) から構成されている。調査対象校ではクラス単位での授業が実施されているため、クラスにうまくなじめているのかといったクラスへの適応の側面が精神的健康に影響を与えている可能性が考えられる。そこで、高校生の学校適応を測定するために作成された尺度であるが、クラスへの適応の側面である「集団機能の維持」も測定する原田・竹本 (2014) の尺度を用いることとした。原田・竹本 (2014) が作成した構成要素のうち、「気になる異性の存在」を除く、9つの側面について、5件法 (1:

全くあてはまらない, 2: ややあてはまらない, 3: どちらでもない, 4: ややあてはまる, 5: 非常にあてはまる) でたずねた。測定する具体的な側面は Table 1に示した。各側面、合計点を項目数で除し、下位尺度得点とした。得点が高いほど、適応した状態を示している。各下位尺度の得点の範囲は、1~5点である。

Table 1 学校適応の側面

豊かな人間性	集団機能の維持	(3項目)
	良好な友人関係	(3項目)
	適度な教師関係	(3項目)
確かな学力	学習意欲の維持	(3項目)
	知識・技能の習得	(3項目)
	夢・目標への努力	(3項目)
	問題の自己解決	(3項目)
学校生活への ポジティブな評価	居心地の良い場所	(3項目)
	時間的展望の確立	(3項目)

3. 新型コロナウイルス感染症流行下の学生生活の状況

2020年度については、2020年4月からオンデマンド形式の遠隔授業が実施され、5月末まで継続された。2020年6月以降対面授業が再開された。第1回調査は対面授業が開始された直後に実施した。2020年度前期は、全15回授業のうち前半6回が遠隔授業、9回が対面授業であった。2020年度後期は、全15回授業のうち最後の1回のみ遠隔授業で、その他は全て対面授業であった。例年実施されていた体育祭や文化祭等の行事は実施されず、サークル活動等の課外活動にも大きな制限があった。

2021年度については、2021年度前期は緊急事態宣言が適用された5月中旬から6月中旬が遠隔授業であった。全15回授業のうち遠隔授業は5、6回であった (曜日により異なる)。2021年度後期は、9月下旬の3回のみ遠隔授業であり、その他は対面授業であった。2020年度と同様、課外活動に様々な制限があった。

4. 倫理的配慮

調査に際し、調査の目的と意義、調査への協力は任意であること、本調査は授業や成績評価とは無関係であること、結果の公表の方法等、倫理的配慮について、書面及び口頭で説明を行い、同意を得て調査を実施した。また、学生生活や健康について不安なことや心配なことがある場合は、学生生活相談室や保健室を利用できる旨の案内を行った。

なお本研究は、名古屋文理大学短期大学部研究倫理委員会の承認を受け実施した (承認番号54)。

結果

1. K10の変化

(1) 項目ごとの変化

K10の項目ごとに平均値および標準偏差を算出し (Table2), 反復測度 (3時点) の分散分析を行った。その結果, 「ゆううつに感じましたか」のみ, 有意差がみられた ($F(2,146)=4.913, p=.009$)。入学時よりも1年終了時で得点が低くなるという変化がみられた ($F(1,73)=8.893, p=.004$)。その他の項目については, 時点間差はみられなかった。

(2) 合計点の変化

K10の合計点を算出した。最低点は10点 (全ての項目で「全くない」という回答) であった。最高点は, 第1回調査40点, 第2回調査37点, 第3回調査44点であった。平均値および標準偏差を算出し (Table 2), 反復測度 (3時点) の分散分析を行った。その結果, 3時点で有意差はみられなかった ($F(2,146)=1.695, p=.189$)。

先行研究 (古川・大野・宇田・中根, 2003)¹⁰⁾ でスクリーニングのカットオフポイントとされる合計点25点以上の学生は, 第1回調査時21名 (28.4%), 第2回調査時19名 (25.7%), 第3回調査時22名 (29.7%) であった。

2. 精神的健康の変化のパターン

3時点全てにおいて回答のあった74名を対象に, 合計点が24点以下を「精神的に健康である」, 25点以上を「精神的に健康でない」とし, 変化のパターンを検討した (Table 3)。その結果, 最も人数が多かったのは, 「3時点とも一貫して精神的に健康であった」群で, 42名 (56.7%) であった。次いで, 人数が多かったのは, 「3時点とも一貫して精神的に健康でなかった」群で, 11名 (14.9%) であった。

Table 3 精神的健康の変化のパターン

第1回調査 入学時	第2回調査 1年終了時	第3回調査 卒業時	度数	(%)
健康 → 健康 → 健康			42	(56.7)
健康 → 健康 → 不健康			6	(8.1)
健康 → 不健康 → 健康			5	(6.8)
健康 → 不健康 → 不健康			0	(0.0)
不健康 → 健康 → 健康			2	(2.7)
不健康 → 健康 → 不健康			5	(6.8)
不健康 → 不健康 → 健康			3	(4.0)
不健康 → 不健康 → 不健康			11	(14.9)
合計			74	(100.0)

3. 入学当初の学生生活への不安や悩み

第1回調査時に短大生活に不安があると回答していたのは23名 (31.9%), 不安がないと回答したのは49名 (68.1%) であった (2名未回答)。不安の内容は, 「授業についていけるか」, 「単位を取得できるか」といった学業面の記述が最も多くみられた (18名)。次いで多かったのは, 「友だちがつくれるか」, 「うまくなじめるか」といった対人関係に関する記述であった (6名)。将来や就職についての不安もみられた (2名)。コロナ禍と関連した不安についての記述はみられなかった。また第1回調査で「精神的に健康でなかった群」のうち半数の11名は短大生活に不安をもっていたが, 10名は不安をもっていなかった。

4. 精神的健康と卒業時の学生生活充実度

3時点全てにおいて K10の得点が25点以上の精神的に健康でなかった11名について, 卒業時の短大生活の充実度を検討した。その結果, 11名中9名は, 充実していた (とても充実していた, まあ充実していた) と回答していた。

Table 2 各項目および K10の合計点の平均値および標準偏差 (SD)

項目	第1回調査 入学時		第2回調査 1年終了時		第3回調査 卒業時	
	平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)
理由もなく疲れ切ったように感じましたか	2.72	(0.93)	2.51	(1.04)	2.62	(0.96)
神経過敏に感じましたか	1.97	(1.05)	2.00	(1.07)	2.19	(1.11)
どうしても落ちつけないくらいに, 神経過敏に感じましたか	1.54	(0.81)	1.65	(0.88)	1.68	(0.95)
絶望的だと感じましたか	1.76	(0.98)	1.73	(0.94)	1.88	(1.10)
そわそわ落ち着かなく感じましたか	2.04	(0.90)	1.82	(0.93)	2.01	(1.03)
じっと座ってられないほど, 落ち着かなく感じましたか	1.47	(0.91)	1.31	(0.70)	1.55	(0.91)
ゆううつに感じましたか	2.47	(1.10)	2.07	(1.15)	2.20	(1.07)
気分が沈みこんで, 何が起ころうとも気が晴れないように感じましたか	2.27	(1.05)	1.99	(1.05)	2.20	(1.06)
何をするのも骨折ரிだと感じましたか	1.76	(0.90)	1.70	(0.89)	1.85	(1.04)
自分は価値のない人間だと感じましたか	2.01	(1.10)	1.96	(1.54)	1.95	(1.07)
K10合計点 (得点範囲: 10~50点)	20.01	(7.34)	18.74	(7.48)	20.14	(8.20)

5. 入学当初の学生生活への不安と卒業時の学生生活充実度

入学当初、短大生活に不安があった23名のうち、19名は卒業時に短大生活を充実していた（とても充実していた、まあ充実していた）と回答していた。

6. 精神的健康と学校適応との関連

(1) 学校適応の縦断的变化

学校適応の各側面について、平均値および標準偏差を算出し (Table 4), 反復測定 (3時点) の分散分析を行った。豊かな人間性について、「集団機能の維持」では入学当初よりも1年終了時に高くなり ($F(1,72)=12.57$, $p=.001$), 卒業時に低下していた ($F(1,72)=8.55$, $p=.005$)。「良好な友人関係」も同様の傾向があり入学当初よりも1年終了時に高くなり ($F(1,73)=23.33$, $p<.001$), 卒業時に低下していた ($F(1,73)=18.73$, $p<.001$)。「適度な教師関係」は入学当初よりも1年終了時に高くなっていた ($F(1,71)=33.03$, $p<.001$)。

確かな学力については、「学習意欲の維持」では、入学当初から1年終了時には変わらず、卒業時に低下していた ($F(1,73)=22.42$, $p<.001$)。「問題の自己解決」は入学当初よりも1年終了時に高くなり ($F(1,73)=5.69$, $p=.020$), 卒業時に低下していた ($F(1,73)=15.04$,

$p<.001$)。「知識・技能の習得」, 「夢・目標への努力」は時点間差がみられなかった。

学校生活へのポジティブな評価については、「居心地の良い場所」では、入学当初から1年終了時には変わらず、卒業時に低下していた ($F(1,73)=6.68$, $p<.001$)。「時間的展望の確立」は、時点間差がみられなかった。

(2) 精神的健康と学校適応の関連 (重回帰分析の結果)

K10の合計点を基準変数とし、学校適応の各側面を説明変数とする重回帰分析 (ステップワイズ法) を行った。入学時については、K10の合計点を基準変数とし、同時点の学校適応の各側面を説明変数とした。1年終了時については、K10の合計点を基準変数とし、入学時と1年終了時の学校適応の各側面を説明変数とした。卒業時については、K10の合計点を基準変数とし、入学時と1年終了時、卒業時の学校適応の各側面を説明変数とした。Table 5に R^2 , 標準化偏回帰係数 (β), VIF を示した。各変数間の相関係数を確認したところ, $|r|>.80$ となる変数は存在しなかったため、全ての変数を対象とした。VIFは全て1.5未満であり、多重共線性に問題はなかった。

入学時の K10を基準変数とした分析では、同時点の学校適応の「時間的展望の確立」が最も精神的健康と関連しており、次いで「集団機能の維持」が精神的健康と関

Table 4 学校適応の側面ごとの平均値及び標準偏差 (SD)

		第1回調査 入学時		第2回調査 1年終了時		第3回調査 卒業時	
		平均値	(SD)	平均値	(SD)	平均値	(SD)
豊かな人間性	集団機能の維持	3.50	(0.69)	3.80	(0.71)	3.59	(0.75)
	良好な友人関係	4.15	(0.59)	4.45	(0.56)	4.15	(0.65)
	適度な教師関係	2.91	(0.42)	3.28	(0.36)	3.35	(0.48)
確かな学力	学習意欲の維持	3.76	(0.62)	3.87	(0.71)	3.52	(0.84)
	知識・技能の習得	3.01	(0.39)	3.11	(0.48)	2.99	(0.54)
	夢・目標への努力	3.76	(0.78)	3.63	(0.74)	3.60	(0.95)
	問題の自己解決	3.73	(0.62)	3.93	(0.62)	3.67	(0.67)
学校生活への ポジティブな評価	居心地の良い場所	3.08	(0.42)	3.20	(0.53)	3.02	(0.55)
	時間的展望の確立	3.35	(0.69)	3.51	(0.87)	3.46	(0.88)

Table 5 重回帰分析の結果

		第1回調査 入学時			第2回調査 1年終了時			第3回調査 卒業時		
(説明変数)		β	p 値	VIF	β	p 値	VIF	β	p 値	VIF
第1回調査 入学時	集団機能の維持	.296	.015	1.480	—	—	—	—	—	—
	時間的展望の確立	-.686	<.001	1.480	-.432	<.001	1.110	—	—	—
第2回調査 1年終了時	問題の自己解決				-.327	.004	1.239	—	—	—
	夢・目標への努力				.235	.030	1.180	—	—	—
第3回調査 卒業時	居心地の良い場所				—	—	—	.209	.048	1.300
	学習意欲の維持							.310	.005	1.197
	時間的展望の確立							-.662	<.001	1.108
R^2		.327	<.001		.304	<.001		.340	<.001	

連していた。「時間的展望の確立」は精神的健康と負の関連であるのに対し、「集団機能の維持」は、正の関連であった。

1年終了時のK10を基準変数とした分析では、入学時の「時間的展望の確立」が最も関連していた。次いで、同時点の「問題の自己解決」と「夢・目標への努力」が関連していた。「時間的展望の確立」と「問題の自己解決」が精神的健康と負の関連であるのに対し、「夢・目標への努力」は正の関連であった。

卒業時には同時点の「時間的展望の確立」がK10と最も関連していた。次いで同時点の「学習意欲の維持」、1年終了時の「居心地の良い場所」が関連していた。「時間的展望の確立」は精神的健康と負の関連であるのに対し、「学習意欲の維持」と「居心地の良い場所」は、正の関連であった。

考察

本研究の目的は、コロナ禍に入学した短期大学生に焦点をあてて、新型コロナウイルス感染症流行下に学生生活を過ごした学生の精神的健康の様相を検討することであった。精神的健康の変化の様相と、精神的健康と学校適応の関連の2点から考察する。

1. 精神的健康の変化の様相

1つ目の目的は、コロナ禍に入学した学生の精神的健康の変化の様相について検討することであった。藤本(2014)¹³⁾では、K10によるスクリーニングで該当していた大学生は15.9%であったことが報告されているが、本研究では該当していた学生は入学時28.4%、1年終了時25.7%、卒業時29.7%であった。先行研究より多くの学生が該当しており、精神的に困難を抱えている学生が多いといえる。新型コロナウイルス感染症流行下の2020年にKessler 6 scale (K6)を用いて大学生の精神的健康を調査した内田・黒沢(2021)¹⁴⁾の結果では、うつ・不安障害が疑われる基準である13点以上の割合が26.7%であり、先行研究よりも明らかに高い割合であることが報告されており、本研究と同様の結果となっている。しかし、山本がコロナ禍前の2016年に実施した調査においてK10の得点が25点以上で精神的に不健康であると考えられる学生は入学時26.5%であり(山本, 2022)²⁾、本研究の結果が新型コロナウイルス感染症の影響であるとは一概にはいえないと考えられる。精神的に不健康である学生の割合が以前より多いことは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による様々な生活環境の変化による

影響というよりも、近年の学生の傾向であるという可能性や、資格取得を目指す学生の特徴である可能性も考えられるが、本研究ではこの点について明らかにできておらず、今後コロナ禍以降の学生のデータや多様な専攻の学生のデータと比較することにより検討していくことが必要であるだろう。

縦断的变化をみると、入学当初から卒業までK10の合計点に時点間差はみられず、2年間で精神的健康状態に変化はみられなかったといえる。

学生生活に不安があると回答した学生の記述をみると、学業への不安についての回答が多く、第1回調査は4月下旬から約1ヵ月半の遠隔授業を行い、対面授業が始まった直後に実施した調査であり、遠隔授業で理解できない点があるなどの学習面の不安があったと考えられる。また、3時点全てにおいて精神的に健康でなかった学生も入学当初学生生活に不安があった学生もほとんどは、卒業時に短大生活を充実したと感じており、精神的な不健康状態にあっても、学生生活に充実感をもち卒業に至ることができる可能性が考えられた。

2. 精神的健康と学校適応との関連

2つ目の目的は、精神的健康と学校適応の関連について検討することであった。重回帰分析の結果、どの時期も「時間的展望の確立」が精神的健康に最も関連していた。この点は、2016年に実施した調査結果(山本, 2022)²⁾と同様であった。入学時の「時間的展望の確立」は、同時点の精神的健康だけではなく、1年終了時の精神的健康と正の関連を示しており、入学時に現在の状態への肯定感や明るい未来の展望を持っていないことが精神的な不健康さと関連していた。この結果をふまえると入学時から肯定的な未来を思い描くことができるような働きかけが重要であると考えられる。

コロナ禍以前の2016年に実施した調査結果(山本, 2022)²⁾では「良好な友人関係」、「適度な教師関係」といった対人関係の側面は精神的健康と関連していなかったが、本研究においても同様の結果であった。

学校適応の「時間的展望の確立」の側面が精神的な不健康さと負の関連を示したのに対して、「集団機能の維持」など学校適応の幾つかの側面では精神的な不健康さと正の関連がみられ、側面ごとに関連の仕方が異なっていた。入学時の精神的健康には「時間的展望の確立」が負の関連を示したのに対して、「集団機能の維持」は正の関連を示していた。この結果は「集団機能の維持」の得点が高いほど精神的な不健康度が高いことを示してい

る。「集団機能の維持」は、クラスが楽しい雰囲気になるように心がけている、クラスの中に元気のない人がいたら励ますようにしているといった項目である。行き過ぎた適応は「過剰適応」であり、過剰適応は環境からの要求や期待に個人が完全に近い形で従おうとすることであり、内的な欲求を無理に抑圧してでも、外的な期待や要求に応える努力を行うこと（石津・安保，2008）¹⁵⁾とされている。入学後約1か月の遠隔授業を行った後の対面授業開始直後に調査を行っており、「集団機能の維持」の得点が高い場合、クラスに早くなじもうと周囲に合わせすぎてしまう過剰適応を示している可能性が考えられる。

1年終了時については「夢・目標への努力」は精神的不健康さと正の関連を示していた。将来のために頑張らなければ、努力しなければと思いの強さが精神的不健康度を高めていると考えられる。卒業時においても「学習意欲の維持」が精神的不健康さと正の関連を示しており、学習を頑張らなければという思いが精神的不健康度を高めていると考えられる。これらの点も石津ら（2008）¹⁵⁾の示す‘外的な期待や要求に応える努力を行う’という過剰適応の一面を示している可能性が考えられるのではないだろうか。

また卒業時には1年終了時の「居心地の良い場所」も精神的不健康度と正の関連を示していた。「居心地の良い場所」は、学校に来れば何か楽しいことがあると思う、学校の中で居心地の良い時間を過ごすことができるといった項目である。「集団機能の維持」と同様に過剰適応である可能性もあれば、大学が居場所となっているほど卒業後に居場所がなくなることへの不安を感じており、卒業時の精神的不健康さと正の関連がみられた可能性も考えられる。学校適応と精神的健康の関連について、過剰適応の可能性から考察したが、この点についても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響というよりも、近年の学生の傾向であるという可能性、短期間で学修し卒業に至る短期大学生の傾向である可能性や、クラス単位の授業を行っている資格取得を目指す学生の特徴である可能性も考えられ今後さらに検討をしていく必要があるだろう。

利益相反

本研究に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

文献

1) 平山皓・全国大学メンタルヘルス研究会，UPI 利用

の手引き，第1版，社会福祉法人新樹会創造出版，（2011）。

- 2) 山本ちか，短大生の精神的健康の様相——縦断的变化と学校適応との関連——，名古屋文理大学紀要，**22**，117-123（2022）。
- 3) 内閣府，新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言，https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitai_sengen_0407.pdf（2020）。（最終閲覧日：2023年9月30日）
- 4) 文部科学省，令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知），https://www.mext.go.jp/content/20200324-mxt_kouhou01-000004520_4.pdf（2020）。（最終閲覧日：2023年9月30日）
- 5) 厚生労働省，新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査結果概要について，<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/syousai.pdf>（2020）。（最終閲覧日：2023年9月30日）
- 6) 文部科学省，新型コロナウイルス感染症の影響による学生等の学生生活に関する調査（結果），https://www.mext.go.jp/content/20210525-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf（2021）。（最終閲覧日：2023年9月30日）
- 7) Kessler, R. C. Andrews, G., Colpe, L. J., Hiripi, E., Mroczek, D.K., Normand, S. L., Walters, E. E., & Zaslavsky, A. M. Short screening scales to monitor population prevalences and trends in non-specific psychological distress. *Psychological Medicine*, **32**, 959-976（2002）。
- 8) 原田克己・竹本伸一，学校適応尺度の作成，金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要，**5**，73-83（2013）。
- 9) 山本ちか，初期青年期の全体的自己価値および具体的側面の自己評価の発達の变化，名古屋文理大学紀要，**13**，1-10（2013）。
- 10) 古川壽亮・大野裕・宇田英典・中根允文，一般人口中の精神疾患の簡便なスクリーニングに関する研究，平成14年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）心の健康問題と対策基盤の実態に関する研究，研究協力報告書，127-130（2003）。
- 11) Furukawa, T. A., Kessler, R. C., Slade, T., & Andrews, G. The performance of the K6 and K10 screening scales for psychological distress in the Australian National Survey of Mental Health and Well-Being. *Psychological Medicine*, **33**, 357-362（2003）。
- 12) 酒井渉・野口裕之，大学生を対象とした精神的健康度調査の共通尺度化による比較検討，教育心理学研

究, **63**, 111-120 (2015).

- 13) 藤本昌樹, Kessler 10 (K10) を大学新入生の精神的
健康調査に使用する有効性と妥当性——通院歴と処
方内容・服薬状況との関連から——, 東京未来大学
研究紀要, **7**, 147-155 (2014).
- 14) 内田知宏・黒澤泰, コロナ禍に入学した大学一年生
とオンライン授業——心身状態とひきこもり願望
—— 心理学研究, **92**, 374-383 (2021).
- 15) 石津憲一郎・安保英勇, 中学生の過剰適応傾向が学
校適応感とストレス反応に与える影響, 教育心理学
研究, **56**, 23-31 (2008).

付記

本論文は, 日本学校保健学会第68回学術大会 (2022),
日本発達心理学会第34回大会 (2023) において報告した
結果を再分析し, まとめたものである.

本調査の実施にあたり, 調査にご回答いただいた皆さ
まに心より感謝申し上げます.

名古屋文理大学紀要 編集，査読，投稿・執筆規定

編集規定

1. 本誌は名古屋文理大学機関紙であり、「名古屋文理大学紀要」と称する。
2. 発行は年1回3月に行う。プレプリントはこの限りでない。
3. 本誌の編集は研究委員会（紀要編集小委員会）が行う。
4. 掲載する論文は、総説、原著論文、ノート、調査報告、研究資料など研究委員会（紀要編集小委員会）が認めたものである。
5. 投稿者は、名古屋文理大学の専任教員、助手または非常勤教員、および専任教員または非常勤教員と連名の学外者のものとする。ただし、学外の者の場合は研究委員会（紀要編集小委員会）の承諾を受けることとする。
6. 論文の投稿は随時受け付け、当該年度の締め切りは10月末日とする。
7. 執筆者は、別に定める投稿・執筆規定を遵守する。
8. 投稿論文のうちヒトを研究対象とした論文は、名古屋文理大学または各機関における研究倫理委員会の、また動物実験を含む論文は、名古屋文理大学または各機関における実験動物委員会等の審査を受け承認されたものであることとする。
また、これらの承認が確認できる資料（コピー可）を論文投稿の際に提出されていなければならない。
9. 査読は、査読規定に基づき実施される。
10. 投稿論文掲載の可否は、査読結果をもとに研究委員会（紀要編集小委員会）が審査し決定する。
11. 発行後の論文の訂正は、訂正論文により行うものとし、訂正論文の掲載は翌号以降の紀要および大学ホームページで行う。また、論文の本質に影響の無い誤字脱字などの軽微な訂正や修正は、正誤表等で行うものとする。
12. プレプリント等の電子化された論文は、査読後の編集会議を経て本学ホームページ上にて公開される。ただし、掲載公開後の加筆修正および取り下げなどは、当該年度の紀要発行後まで認められない。
13. プレプリント等でマルチメディア化された論文においても、その論文単体で内容が完結されていなければならない（例えば参照先がリンク切れをしても十分な研究成果の報告ができるようにしておくこと）。
14. 投稿論文の紀要掲載の順番は、紀要編集小委員会が定める研究分野別分類に基づき決定される。
15. 本誌に掲載された論文の著作権は、名古屋文理大学に帰属する。著者は投稿論文が電子データとして公表されることを承諾する。ただし、著者が自分の論文を複製・転載等の形で利用することは自由である。
16. 原稿印刷に関して特に費用を必要とするものは執筆者の負担とする。
17. 名古屋文理大学の非常勤教員が単独で投稿する場合、名古屋文理大学の非常勤教員が学外者と連名で投稿する場合、および学外の者のみで投稿する場合には投稿料を徴収する。投稿料は掲載に必要な実費を基準とする。
18. 投稿は、初校、第2校、第3校を以って校了となる。

査読規定

1. 査読者の選出は紀要編集小委員会が行う。
2. 査読は、本学教員で助教、准教授、教授の資格を有する者が行う。
3. 査読は、投稿論文1件につき査読者2名で行う。
4. 査読は、紀要編集小委員会が別途定める査読シート用い行う。
5. 査読者名は匿名扱いとし、執筆者との仲介は紀要編集小委員会が担う。このとき、査読者から執筆者への、あるいは、執筆者から査読者への連絡は査読シートで行うものとする。

6. 掲載の可否は、紀要編集小委員会が、査読結果をもとに紀要編集会議において協議の上決定する。
7. 執筆者への査読結果および掲載可否の連絡は紀要編集小委員会が行うものとする。

投稿・執筆規定

1. 投稿者は、紀要編集規定第5項に定められた者であること。
2. 名古屋文理大学の非常勤教員が単独または学外者と連名で投稿する場合、および学外の者が本学の専任教員との連名でなく投稿する場合には投稿料が必要となる（下参照）。投稿料は掲載に必要な実費を基準とする。

紀要投稿料の有無

著 者	共著者	投稿料
専任教員、助手	なし、非常勤、学外者	—
非常勤教員	専任教員	—
非常勤教員	なし、非常勤、学外者	必要
学外者	なし、非常勤、学外者	必要

3. 投稿論文は未公開のものに限る。
4. 投稿論文は、完成原稿とする。
5. 原稿の作成には、文書作成ソフト等を用いるものとし用紙サイズはA4版とする。
6. 論文の長さは、A4用紙40字×36行の設定（約1480字／頁）で10ページ程度を目安とする。なお、図表、写真などもこれに含むものとする。
7. 原稿の第1頁には、表題、英文表題、著者名、論文要旨（論文が日本語の場合には日本語要旨に英文要旨を加えることを原則とする）、日本語と英語のキーワード（3～5語）を記すものとする。また、英文表題は、文頭以外でも冠詞、接続詞、前置詞以外の単語は、頭文字を大文字にする。
8. 著者名および共著者は、姓名と所属をそれぞれ列記する。また、投稿者が名古屋文理大学の非常勤教員および学外の者の場合には、それぞれの右肩に*,**（アスタリスク）等の記号を付けて区別し、その所属を脚注に明記する。
9. 図表に関して
 - (1) 図（グラフ、写真、画像など）は、本文中に挿入もしくは原稿の終わりに添付する。本文中には朱書きで図の挿入箇所、図番号および刷り上がりの大きさを明記する。
このとき、図の作成にはなるべくアプリケーションソフト等を用いる。手描きをする場合は、刷り上がり予定よりも大きなサイズで原版を作成する。また、図番号、図の説明文は、図の下側に配置する。
 - (2) 表は、本文中に挿入もしくは原稿の終わりに添付する。本文中には朱書きで表の挿入箇所、表番号および刷り上がりの大きさを明記する。
このとき、表の作成にはなるべく表作成ソフト等を用いる。また、表番号、表の説明文は、表の上に配置する。
10. ヒトに関する研究および動物実験を含む研究については、編集規定第8項に定める諸機関による承認の証明資料を投稿時に添付する。
11. プレプリントや電子媒体を活用した論文では、主要な映像や写真等の図が論文中に掲載され、論文のみで内容が完結されていなければならない（例えば参照先のリンクが切れてしまっても研究成果の本質に影響がないこと）。
12. 注、引用文献、参考文献をつける場合は、論文の最後に注、引用文献、参考文献の順で列挙することとする。
13. 注は、文書中に注1) のように番号を記す。
例：———といわれている^{注1)}。
14. 引用文献については、著者名、著書名、出版年、論文等の場合は、号数、巻数などの詳細を必ず記すこととする。また、図や表等についても、同様に出典を明確にする。
引用順に1) のように一連番号をつけ引用文献にまとめる。巻一号は太字とする。

例：———について多くの報告¹¹⁾がある。

引用文献書式

和文雑誌の場合：著者名，論文表題，雑誌名，巻一，最初頁 - 最終頁（発行年）。

例：中島秀之，橋田浩一，松尾豊，IT と社会を繋ぐ認知科学，認知科学，**14-1**，31-38（2007）。

単行本の場合：著者名，書名，第何版，発行所，最初頁 - 最終頁（発行年）。

例：山崎正和，柔らかい個人主義の誕生，16版，中央公論，72-73（1985）。

分担執筆の場合：著者名，章の表題，編者（編），書名，第何版，発行所，最初頁 - 最後頁（発行年）。

例：藤井義夫，文献学一般との関係，田中美智太郎（編），哲学の歴史，重版，人文書院，431-432，（1980）。

欧文

Journal articles: : Authors, Title of articles, Name of Journal, **Volume**, First page-last page (Year).

例：Gross J, Kirk D, Heart precipitation of collagen from neutral salt solutions, *J Biol Chem*, **233**, 355-360 (1959).

Books : Authors, Title of chapter, In: Title of Book. Edition, Editors (eds.), Publisher, First page-last page (Year).

例：Ramachandran GN, Ramakrishnan C, Molecular Structure, In: Biochemistry of Collagen. Ramachandran GN, Reddy AH (eds.), Plenum, 45-81 (1976).

website からの引用の場合

和文

例：稲村理，引用文献の書き方について。

<http://nagoya-bunri.ac.jp/~works/kakikata.html> より2006年8月25日検索

欧文

例：Smith T, Bush R, Gore A, Role of reference elements in the selection of resources. *Journal of Bibliographic Research* (2006). Retrieved August 25, 2006 from <http://nagoya-bunri.ac.jp/~works/kakikata.html>

15. 引用しない文献等については，参考文献として引用文献の後にまとめて記載する。
16. 句読点は，，（全角カンマ）と．（全角ピリオド）を使い，欧文の場合は，それぞれの半角文字を用いるものとする。
17. 投稿締切と原稿の提出方法について
 - (1) 論文原稿の募集期間は特に設けられておらず，提出は随時可能である。ただし，年度内の出版に間に合わせるためには10月末日までに投稿をする必要がある。
 - (2) 投稿の際論文原稿は，紀要編集小委員会に2部（コピー可）提出し，投稿申込として，下記の①～⑤の内容を紀要編集小委員会宛に電子メールで送信する。
 - ①著者，共著者，②論文タイトル，③学術分野，④概算のページ数，⑤カラーページ数なお，プレプリントなど電子媒体での投稿方法は別に定める。
 - (3) 初校用原稿（査読修正済の第1回目印刷入稿用）は，プリントアウト1部とその原稿データ（CD，DVD等）を提出する。複数のファイルを電子メールで送信する場合には，それらを一つのフォルダ内にまとめ送信する。なお，フォルダ名，ファイル名には必ず著者名も加える。
 - (4) 電子版プレプリントの公開は，査読実施後編集会議の審議により，3月を待たず随時可能だが掲載年度表記は(1)に準ずる。
18. 投稿先は，研究委員会・紀要編集小委員会とする。
19. 初校，第2校，第3校を以って校了となる。

平成20年6月19日 研究委員会改訂
平成25年4月1日 研究委員会改訂
平成26年10月1日 研究委員会改訂
平成28年7月28日 研究委員会改訂

紀 要 第24号

令和6年3月31日刊

編 集 名古屋文理大学 研究委員会（紀要編集小委員会）

発 行 名古屋文理大学
稲沢市稲沢町前田365
TEL (0587) 23-2400
FAX (0587) 21-2844

印 刷 (有)三星印刷
名古屋市西区幅下1-1-12
TEL (052) 571-0796
FAX (052) 561-8517

名古屋文理大学
紀要